

第2期

新発田市観光振興基本計画



令和3年8月

新発田市

ごあいさつ



新発田市は新潟県の北部に位置する県北の中核都市であり、北西部には白砂青松と形容される美しい海岸線が広がり、南東部の山岳地帯には日本一小さな山脈、楡形山脈や、日本二百名山に数えられる霊峰、二王子岳などがそびえます。

当市はこの豊かな自然に育まれ、良質米コシヒカリの産地としても知られ、米菓や日本酒などを代表とした食品加工業が盛んであり、全国有数の泉質を誇る月岡温泉とその宿泊施設を有します。

また、江戸時代までは新発田藩十万石の城下町として栄えた歴史をもち、現在も、その風情と文化が色濃く残り、3匹の鯢をのせた新発田城三階櫓、国の重要文化財である足軽長屋に国指定名勝の溝口家下屋敷の清水園など魅力的な観光資源が揃っています。

当市では、こうした観光資源を活かし、「人のインバウンド、物のアウトバウンド」を標榜し、これまで、台湾や韓国、香港へのトップセールスを行い、誘客に取り組んでまいりました。あわせて、新発田産米の輸出を推進するとともに、その相乗効果により、様々な交流活動を展開し、その受け皿として観光地域づくり法人（DMO）の発足を果たし、「稼げる観光地」を目指し、各種事業を進めております。

その成果が目に見えて出始めた矢先、令和2年2月末からの新型コロナウイルスの感染拡大により「人のインバウンド」は皆無となり、月岡温泉をはじめとする観光業は大きな痛手を受け、先の見えない状況が続いています。

しかしながら、このような状況の中での一筋の光として、これまで「個」として商売を営んできた各旅館・ホテルやバス・タクシーなどの運送業者、飲食業者や食品加工業者などの異業種同士が互いに話し合い、協力しあうなど、かつてはなかった活動が見られるようになり、コロナ禍以前から進めてまいりました稼げる観光地づくりとしての「オール新発田」体制が整いつつあることを実感しています。

こうした息吹をより一層育み、行政と民間、市民とが一致団結してこの危機を乗り越え、実りある新発田市にしていくために「第2期新発田市観光振興基本計画」を策定いたしました。

本計画が、新発田の新たな観光の羅針盤となればと思っています。

結びに、本計画の策定にあたり、御尽力いただきました関係各位並びに貴重な御意見をお寄せいただきました市民の皆様に深く感謝申し上げます。

令和3年8月

新発田市長 二階堂 馨

新発田市観光振興基本計画（第2期）

～ 目次 ～

1	計画の背景	1
2	計画の目的と推進体制	2
3	計画の構成・期間	3
4	観光振興の現状	4
	（1）過去10年間の観光入込数の推移	4
	（2）過去10年間の月岡温泉入込数の推移	4
	（3）新型コロナウイルス感染症に伴う観光関連事業者への支援	5
5	第1期観光振興基本計画の実施状況	7
	（1）重点施策の概要	7
	（2）具体的施策の実施状況	8
	（3）重点施策別事業の達成状況	18
	（4）施策別事業の成果・問題と課題	19
	（5）地区別計画の実施状況	24
	（6）計画の実施状況・成果と問題点・課題	26
6	第2期基本計画の基本方針と具体的なターゲット	32
7	第2期基本計画の実施体制と事業の目標と評価方法	33
	（1）事業の実施体制	33
	（2）事業の目標と評価方法	34
8	第2期基本計画の新たな施策展開と事業	35
	（1）新たな施策展開の考え方	35
	（2）新型コロナウイルス感染症への対応	35
	（3）具体的施策と実施時期	37
9	第2期基本計画の地区別計画	44
10	資料編	47
	計画の前提資料	47
	計画の策定体制等	59

1 計画の背景

新発田市は、山から海までの豊富な自然、城下町としての歴史と文化、全国随一の月岡温泉など、豊富な観光資源に恵まれた地域です。この資源を掘り起こし、磨き上げて活用することにより、多くの観光客を呼び寄せ、市内各地域への回遊と経済効果を創出することを目指し、平成19年に「新発田市観光振興基本計画」（以降、基本計画）を策定し取組を進めてきました。

国も令和2年にインバウンド観光客4,000万人、観光消費額8兆円、令和12年には観光客6,000万人、観光消費額15兆円を目標に掲げ、観光による地方創生、地域振興策を進めており、当市においても、平成28年度から本格的にインバウンドの誘客策を開始し、新潟空港に直行便のある、中国、台湾、韓国を中心に海外旅行エージェントへのPRや商談を行ってきました。

また、こうした誘客活動の受け皿として、平成29年度に新発田市観光協会が中心となって、新発田商工会議所をはじめ、関係機関、民間事業者、学校、市民が参画する「新発田市観光地域づくり推進協議会」を設置して、DMO（注1）活動による観光地経営を進めており、「稼げる観光地づくり」を、「オール新発田」体制により取り組むこととしスタートしたところであります。

しかしながら、令和2年2月末以降の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光を取り巻く環境は一変しました。インバウンドによる訪日外国人観光客は皆無となり、国内においても旅行のキャンセルや予約控え、さらには外出自粛の影響により観光需要は大幅に落ち込み、その影響は今年、令和3年を迎えても収束しておらず、依然として厳しい状況が続いています。

元々、観光を取り巻く環境は大きく変化し、旅行形態も団体から個人（FIT（注2））へ急激にシフトしており、従来の観光バスで観光地を回る旅行者は著しく減少しています。この度のコロナ禍はこの流れを加速こそすれ、以前のように逆戻りすることはないと考えます。

観光の在り方そのものが大きく変わっていく中で、国や新潟県は「新しい生活様式」を取り入れ、様々なガイドラインや「新しい旅のエチケット」等の徹底により感染拡大防止と経済活動の両立を目指した取組を行っています。

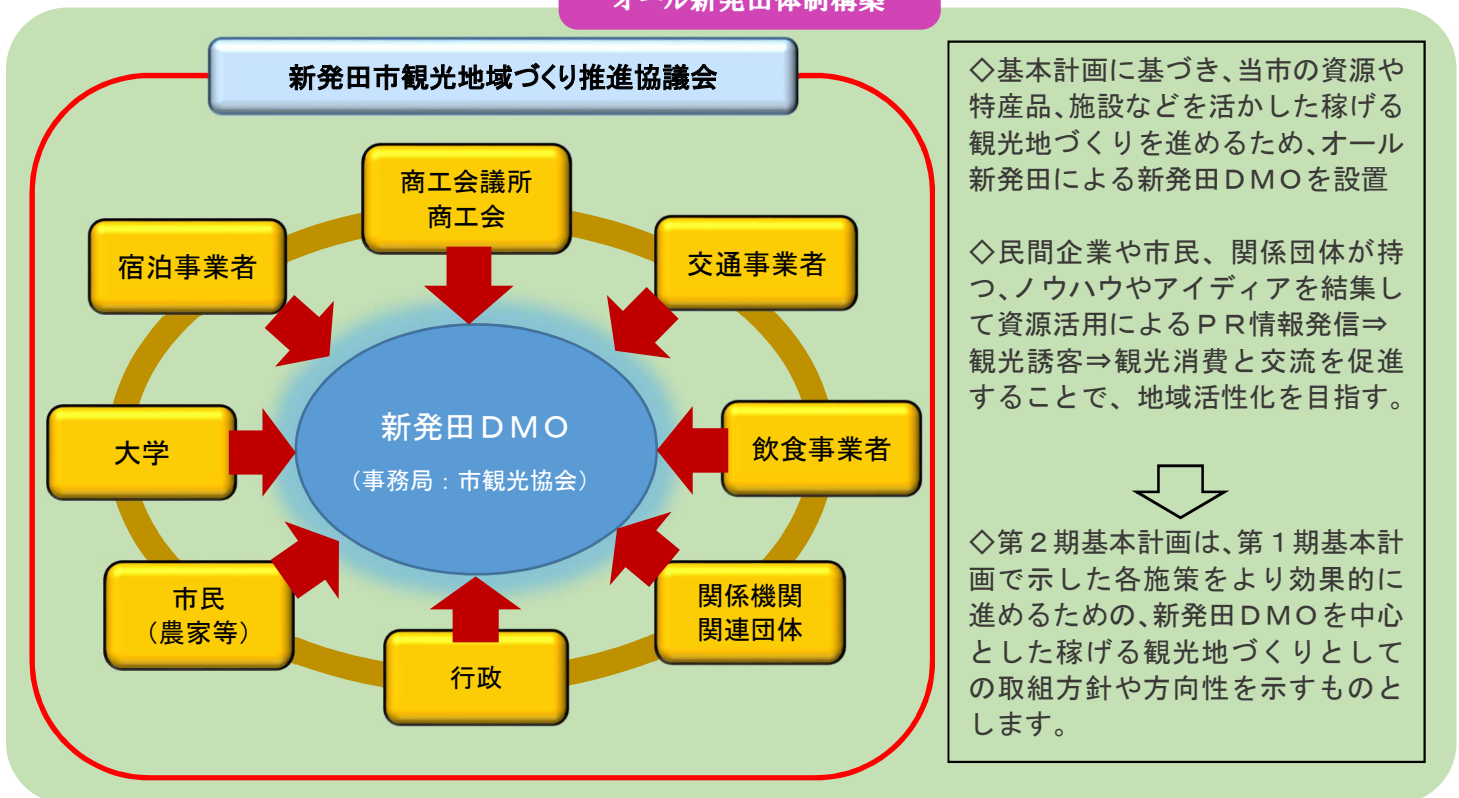
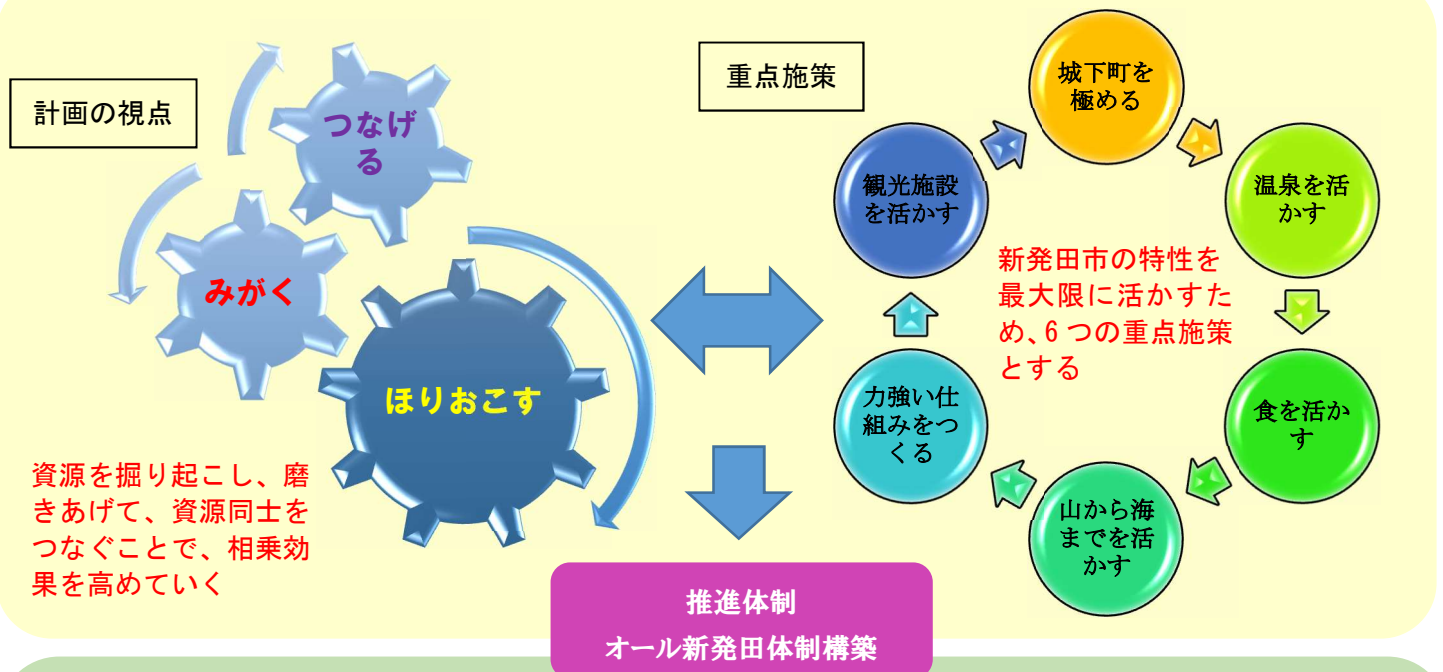
第2期基本計画では、こうした取組を踏まえ、第1期基本計画で掲げた5つの重点施策「城下町を極める」、「温泉を活かす」、「食を活かす」、「山から海までを活かす」、「力強いしくみをつくる」に「観光施設を活かす」を加えた6つを重点施策として掲げ、足元の資源をさらに磨き上げるとともに、新たな課題として、二次交通の確保、広域連携、各種体験や交流事業の創出、またアフターコロナを見据えたコロナ禍における観光の指針となるよう改訂するものです。

注1 DMO …地域の稼ぐ力を引き出すとともに、「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、観光地づくりを実現するための戦略を策定し、着実に実施するための調整機能を備えた法人のこと

注2 FIT …団体旅行やパッケージツアーを利用することなく個人で海外旅行に行くこと

2 計画の目的と推進体制

本計画は、「新発田市まちづくり総合計画」での観光の基本方針「訪れる人も住む人も、笑顔で賑わう観光のまち」を実現するために、第1期基本計画で示した指針に加え、地域資源の掘り起こしと磨き上げをはじめ、それに携わる人材の養成や他団体等との連携体制について、基本的な考え方と戦略を明確にするものです。



3 計画の構成・期間

第2期基本計画は、上位計画である「新発田市まちづくり総合計画」に示した目的達成のため、観光による産業振興の方針及び年次的な目標を明示するものとし、基本方針、施策展開、地域別計画で構成するものとします。

■構成

① 基本方針

当市が目標とする観光振興策を実現するための目標を示すものであり、「第1期基本計画」で定めた目標と成果に基づき、取組をさらに進化させるための基本構想を示します。

② 施策展開

目標を達成するため、6つの重点施策による各事業を推進するための方策を示します。

③ 地域別計画

目標を達成するため、6つの地域ごとに重点施策を踏まえた各事業を推進するための方策を示します。

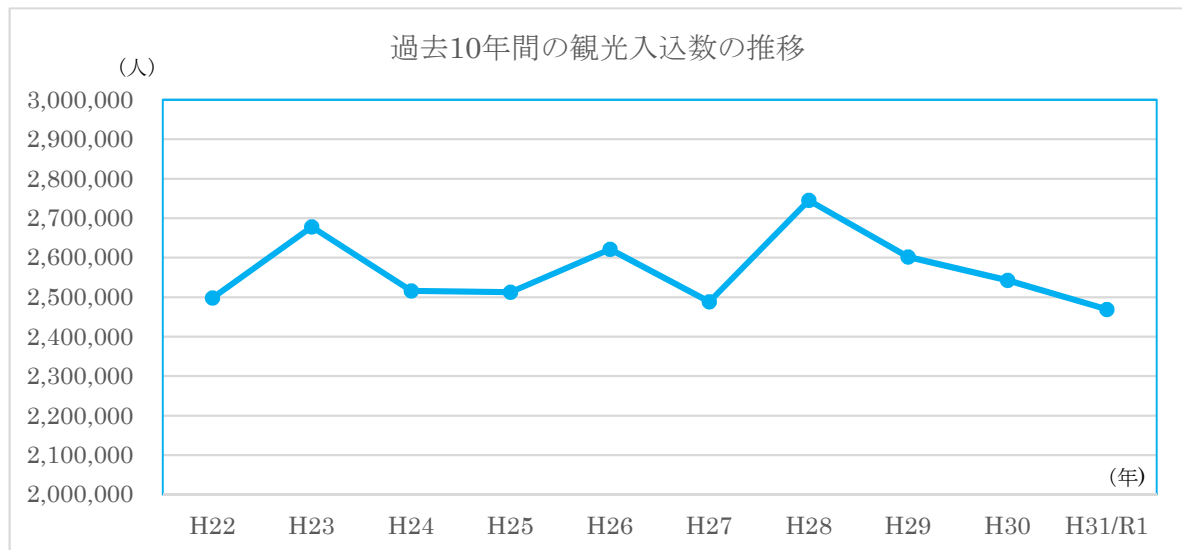
■期間

第2期基本計画の期間は、令和3年度から令和10年度までの8年間とします。計画開始から4年間の前期とし、活動の実績や成果、新たな問題点や課題・対応策を含む見直しを行い、後期の4年間の計画に反映するものとします。ただし、前期当初は、コロナ禍にある状況を踏まえ、苦境にあえぐ観光関連業界をしっかりと支援していくこととします。



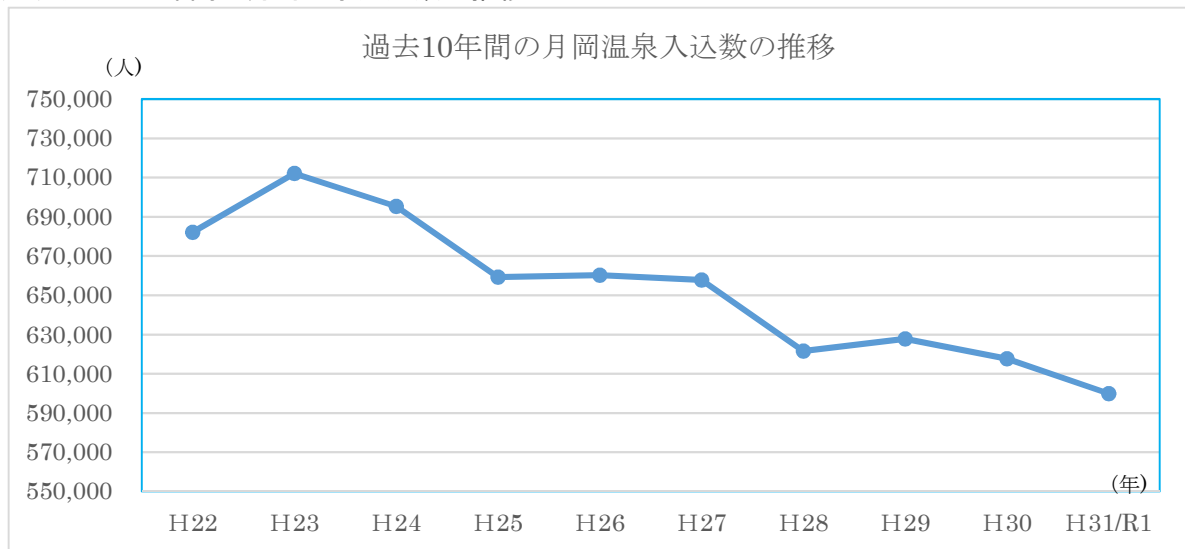
4 観光振興の現状

(1) 過去 10 年間の観光入込数の推移



市内の観光入込数は、近年は 250 万人から 280 万人の間を推移しており、平成 31 年は約 247 万人となっています。主要観光地では、月岡温泉がもっとも多く、次に紫雲の郷、道の駅加治川などとなっています。直近ではコロナ禍の影響で大幅に減少しています。

(2) 過去 10 年間の月岡温泉入込数の推移



月岡温泉入込数は平成 23 年に東日本大震災の風評被害を克服するため、「復興バスプラン」を実施し、70 万人を超えましたが、「団体」から「個人」への旅行形態の移り変わりや、平成 25 年、28 年において廃業する旅館が相次ぎ、減少傾向が続いています。

このような状況下にあっても、「歩いて楽しい温泉街」づくりの取組により、足湯施設や魅力的な個店を目当てに訪れる日帰り客の伸びや、施設の大規模リニューアルが奏功した旅館ホテルもあり、減少傾向に歯止めがかかりつつありましたが、コロナ禍により直近の入込数は著しく減少しています。

（３）新型コロナウイルス感染症に伴う観光関連事業者への支援

新型コロナウイルス感染症が令和２年２月末から拡大し、人の移動が制限され、旅行の機運が低下したことにより入込数は大幅に減少しました。観光産業が被った影響が甚大となったことから、市として緊急経済対策を実施しました。

宿泊事業者 支援	○今・得キャンペーン（第１弾） 宿泊利用者に対する宿泊割引の実施 《期間》 令和２年５月７日から６月３０日 《対象》 市民（５月７日から） 新潟県民（５月１６日から拡大） 全国（６月１９日から拡大） 《内容》〔月 岡 温 泉〕１組１０,０００円割引 〔市内旅館ホテル〕１人半額（最大５,０００円）割引
	○今・得キャンペーン アゲイン（第２弾）※月岡温泉売切れに伴い 宿泊利用者に対する宿泊割引の実施 《期間》 令和２年７月１日から９月３０日 《対象》 全国 《内容》〔月 岡 温 泉〕１組１０,０００円割引 〔市内旅館ホテル〕１人半額（最大５,０００円）割引
	○今・得キャンペーン プラス（第３弾） 宿泊利用者に市内で使える商品券及びお土産購入券（寺町たまり駅で引換）の特典を付与 《期間》 令和２年１０月１日から１１月３０日（月岡温泉は９月１日から） 《対象》 全国 《内容》〔月 岡 温 泉〕１組につき土産品購入券（３,０００円）及び商品券（３,０００円）を贈呈 〔市内旅館ホテル〕１組につき土産品購入券（３,０００円）及び商品券（３,０００円）又は商品券（１,０００円）を贈呈
	○今・得キャンペーン Tomorrow（第４弾） 宿泊利用者に対する宿泊割引の実施 《期間》 令和２年１１月１日から令和３年１月３１日 ※１２月１７日より感染拡大により停止終了 《対象》 全国 《内容》〔月 岡 温 泉〕１人３,０００円又は１人１,０００円割引 〔市内旅館ホテル〕１人３,０００円又は１人１,０００円割引
	○今・得キャンペーン 2021（第５弾） 宿泊利用者に対する宿泊割引の実施 《期間》 令和３年２月１２日から令和３年３月３１日

宿泊事業者 支援	《対象》 市民（2月12日から） 新潟県民（令和3月1日から拡大） 《内容》〔月岡温泉〕半額割引（1人最大6,000円） 〔市内旅館ホテル〕半額割引（1人最大6,000円） ※1組あたり最大4人まで割引 ○温泉排水処理費補助 月岡温泉旅館、ホテルの休業期間における温泉排水処理費に対する補助 《対象期間》 令和2年4月又は5月分 《対象》 月岡温泉旅館、ホテル（計16施設）
バス事業者 支援	○無料シャトルバス運行（第1弾） 《期間》 令和2年6月1日から7月31日 《区間》 月岡温泉、新潟駅、燕三条駅、長岡駅 《内容》 完全予約制の月岡温泉無料送迎バス ○無料シャトルバス運行（第2弾） 《期間》 令和2年8月1日から11月30日 《区間》 8月：市内、月岡温泉、新潟空港、新潟駅 9月：市内、月岡温泉、新潟駅 10～11月：市街地周遊、月岡温泉、新潟駅 ○無料シャトルバス運行（第3弾） 《期間》 令和2年12月1日から令和3年1月31日 ※令和2年12月28日より感染拡大により停止終了 《区間》 市内、月岡温泉、新潟駅 ○無料シャトルバス運行（第4弾） 《期間》 令和3年3月7日から3月31日 《区間》 市内、月岡温泉、新潟駅、燕三条駅、長岡駅
月岡芸妓支 援	○月岡芸妓支援事業 月岡温泉足湯施設「湯足美」舞台での踊り披露、ホテル・旅館での宿泊客お出迎えを実施することで、芸妓文化の維持と月岡温泉のPRにつなげるとともに、月岡芸妓本人に対する生活支援を実施した。 《期間》 令和2年11月1日から12月13日※土日 ※踊り披露、宿泊客お出迎え

※令和3年3月31日時点

5 第1期観光振興基本計画の実施状況

(1) 重点施策の概要

城下町を極める

旧市街地の風情と活力の創造

「城下町新発田の文化や佇まい」は、当市の観光発展を目指すうえでの貴重な資源です。この価値を高めるため、城下町の風情を最大限に引き出し、他の観光資源との連携を深めるとともに、誇りをもって来訪者をもてなす市民意識の醸成を図ります。

温泉を活かす

多様な温泉資源価値の向上

全国区の知名度を誇る月岡温泉をはじめ、市内各地の温泉資源を活用して、それぞれの温泉と周辺の観光資源を関連づけることで魅力を一層高めます。

食を活かす

和菓子、地場産農産物等の活用

肥沃な大地で生産された米、アスパラガス、イチゴ越後姫、野菜、果物、肉、地酒、城下町で育まれた和菓子文化など、食に関わる資源がたくさんあります。また、「全国雑煮合戦」など、市民による食をテーマとした取組が定着しています。観光振興の重要分野として、地場産食材や加工食品の企画、販売促進など、地域食材を活かした観光振興を展開します。

山から海までを活かす

観光資源どうしの連携

当市は、飯豊山系の山並や、それらを水源とする加治川によって形成された溪谷と越後平野、流れ注ぐ日本海に至るまで、多様な自然を有しており、そこに古代から現代に至るまでの文化の花を咲かせてきました。これらの多様な自然と文化が一体となった観光メニューを来訪者に提供します。

力強いしくみをつくる

実施体制と発信のしくみ

観光は「居住者が地域の良さに気づき」、「来訪者にこれを紹介し、もてなす」ことであり、地域活力を支える産業です。市民、事業者、行政がそれぞれの役割を果たし、一体となった取組を行うことが大切です。このため市民意識の向上、個店の創意を活かした連携、観光組織の強化連携、情報発信の充実、関連産業との連携を進めます。

(2) 具体的施策の実施状況

■城下町を極める

区分	具体的施策	取組状況	評価
もてなし 力の向上	住民の観光に対する意識向上	出前講座等で市民や関係 団体に周知	B
	歴史・文化に対する知識向上	観光施設や歴史図書館で の企画展などで市民周知	B
	観光ガイドボランティア等人材育成	ガイドボランティア協会 の支援を通じて人材育成	A
	新発田市検定等資格認定制度確立	未実施	C
	市民団体等への支援制度	武庸会はじめイベントな どに併せて支援	B
体験ツアー の企画開発	たまり駅・まちの駅の活用	寺町たまり駅を中心に市 街地回遊拠点として活用	B
	職人や伝統文化の推進	職と食まつりなどの実施 を通じて文化の伝承活動 を実施	B
	伝統行事・祭等との連携	赤谷どんつきまつりでの 観覧ツアーをはじめ、伝 統行事を活用した事業を 実施	B
情報発信の 充実	魅力あるガイドブック・マップ作成	市街地をはじめ、各地域 や資源を活用した、マッ プやガイドブックを作成	A
	月岡温泉との連携	市及び市観光協会、月岡 温泉観光協会の HP など で情報発信	A
	商店街・観光関連団体との情報交流システム構築	未実施	C
	大学等との連携	大学や高校との連携につ いて協議	B
	芸術家・文化人・職人等の情報データ化	未実施	C
歴史的景観 の再生	寺町周辺地域の景観整備	継続的な景観整備を実施	B
	県立新発田病院跡地の活用	アイネスしばたとして活 用	A
	新発田川・水辺空間の景観整備	水の道構想に基づき継続 整備	B

区分	具体的施策	取組状況	評価
歴史的景観の再生	歴史的建造物の保存・活用	歴史的建造物保存のための助成金制度を整備	B
	空き店舗の活用・整備	月岡温泉及び市街地で、空き店舗活用を実施、支援	B
交通システムの改善	月岡温泉との交通システム構築	新潟空港から月岡温泉までのバスプランを実施	B
	快適な歩行空間の整備	継続的に整備	B
	市街地公共交通の充実	市街地循環バスを運行	B
	新たな交通手段の導入（デマンドタクシー等）	一部実証運行開始	B
	駐車場空状況提供システムの導入	未実施	C

評価：

A 事業実施により目的達成 B 一部事業実施 C 事業未実施 D 事業の変更、終了・廃止



出前講座等による住民の意識向上



伝統行事との連携（赤谷どんつき祭り）

■温泉を活かす

区分	具体的施策	取組状況	評価
月岡温泉集客戦略プログラム	温泉資源の新たな活用	足湯、手湯など温泉を活用したモニュメント等を整備	A
	宿泊パック等の企画・開発	ゴルフと宿泊をパックにしたプランを実施	A
	イベントの企画・実施	スパフェス等、各種イベントを実施	A
	市街地との観光セットメニュー開発	市街地観光、買い物等を行うセットメニューを実施	A
	周辺観光施設等の整備	市島邸等、周辺観光施設の整備を実施	A
	温泉街景観整備	道路美装化やファサード整備の実施	A
	観光案内板・標識整備	案内看板等の整備、補修を実施	B
	市街地との交通システム構築	観光イベントバスの実証実験を踏まえ、しばたん観光バス等を実施	B
	温泉活用指導者等人材育成	健康づくり大学の実施を通じて人材を育成。所期目的達成のため事業終了	D
日帰り温泉施設の活用	外国人観光客の掘り起こし	中国、台湾、韓国、香港などを対象に誘客活動を実施	A
	各施設の特性・泉質の活用推進	健康づくり大学を通じて活用推進。所期目的達成のため終了	D
	周辺観光資源との連携	未実施	C
	日帰り温泉施設間の連携	未実施	C
	市街地との交通システム構築（再掲）	観光イベントバスの実証実験を踏まえ、しばたん観光バス等を実施	B
	観光案内板・標識整備（再掲）	案内看板等の整備、補修を実施	B

評価：

A 事業実施により目的達成 B 一部実施途中 C 事業未実施 D 事業の変更、終了・廃止



あしゆ湯足美（ゆたび）



温泉景観整備（月あかりの庭）



交通システム構築
（月岡温泉周遊ライナー）

■食を活かす

区分	具体的施策	取組状況	評価
菓子文化の振興	月岡温泉との連携	旅館や関係施設での和菓子販売	B
	既存イベント等との連携	各種イベント等での和菓子物販を実施	A
	PR 宣伝活動	新発田ブランド事業を通じて PR 宣伝を実施	A
	新発田ブランドの普及・開発	新発田ブランド認証制度を創設	A
	後継者の確保・育成	未実施	C
地域食材、特産品の振興	地消地産の推進	食のアスパラ横丁等地元食材キャンペーン等を実施	A
	新メニューの企画・開発	アスパラカレー等、新メニューを企画	B
	郷土料理の活用	未実施	C
	飲食関係団体との連携体制の構築	各種イベントを通じて連携体制を構築	B
	安全管理システムの導入	未実施	C
	販路拡大事業	米の輸出をはじめ、首都圏などでも PR や販路拡大活動を実施	A
食イベントの充実	既存イベントの連携・支援	全国雑煮合戦をはじめ食イベントの開催を企画、実施、支援	A
	新イベントの企画・実施	札の辻等で各種食イベントを実施	A
	創作料理コンクール等の実施	未実施	C
PR キャンペーンの充実	月岡温泉との連携	旅館等での地元食材の使用促進	B
	観光拠点施設の活用	市観光情報センターでの PR 実施	A
	「食の駅」整備事業	未実施	C
	商品への付加価値付け	地元食材等を使用した新商品等の開発、販売促進	B
	首都圏、友好都市でのキャンペーン実施	海外をはじめ、首都圏等での PR や販売促進を実施	A

区分	具体的施策	取組状況	評価
推進体制の構築	生産者・食品関連団体による推進組織の確立	新発田 DMO 設立に伴い連携強化	B
	委託生産システムの構築	未実施	C
	消費者ニーズの調査・分析	新発田 DMO によるニーズ調査実施	B
	市場状況の調査・分析	新発田 DMO による調査、分析実施	B

評価：

A 事業実施により目的達成 B 一部事業実施 C 事業未実施 D 事業の変更、終了・廃止



菓子文化の振興（どらやき作り体験）



販路拡大事業（トップセールスでの PR）

■山から海まで活かす

区分	具体的施策	取組状況	評価
海洋資源の活用	藤塚浜・紫雲寺記念公園の利用促進	各種イベントやPRの実施	B
	漁村との交流機会の創出	未実施	C
	漁港の活用	漁港内に加工施設、販売施設を整備、定期的な販売促進イベントを実施	A
	海洋レクリエーションの普及	未実施	C
山岳資源の活用	登山道・ハイキングコースの整備・充実	登山道の整備充実	A
	ゴルフ場等、里山の利活用	阿賀北ゴルフプランを関係市町と連携して実施	A
	森林レクリエーションの普及	未実施	C
田園資源の活用	各地域資源の活用、保全	中山間地域の耕作放棄地対策の実施	A
	農村との交流機会の創出	地区の催事、行事と連携した旅行プラン、観覧ツアーなどを企画実施	A
	景観の保全、整備	環境保全対策を支援	A
河川資源の活用	加治川及び周辺エリアの活用、整備	桜を活用したジョギングイベントや桜まつりイベントなどの実施	A
	河川レクリエーションの普及	桜を活用したジョギング大会や桜イベントの実施	A
情報発信システム構築	各地域や種類別の花木情報の提供	桜や菖蒲の開花情報を市観光協会HPなどで発信	B
	各地域の祭・伝統行事情報の提供	各地域の情報を市観光協会HPなどで発信	B
各地域への支援体制	地域の宝ものづくり活動の支援	事業終了	D
	各地域の観光資源の再発掘	地区の催事、行事と連携した旅行プラン、観覧ツアーなどを企画実施	A
	地域における人材の育成・伝承活動	登山道の整備や桜まつりの開催など、地元関係団体が実施する取組を支援	B

評価：

A 事業実施により目的達成 B 一部事業実施 C 事業未実施 D 事業の変更、終了・廃止



山岳資源（大峰山の椽平サクラ樹林）



海洋資源（藤塚浜海水浴場）



河川資源の活用
（加治川堤でのジョギング大会）

■力強い仕組みをつくる

区分	具体的施策	取組状況	評価
市民との連携	住民の観光に対する認識の向上（再掲）	出前講座などを通じた意識醸成	B
	観光ガイドボランティア等人材育成（再掲）	観光ガイドボランティア協会と連携した各種講座や育成活動の実施	A
	新発田検定等資格認定制度の確立（再掲）	未実施	C
	市民団体 NPO 等の連携、活動促進	市民団体、NPO 等が多様な地域づくり活動を実施	B
	環境美化活動	各地域が任意の活動として事業実施	B
	情報交流・発信拠点の整備	駅前に観光情報センターを設置、外国人にも対応できる案内体制を整備	A
観光関係組織の確立	関係団体間の連携	新発田 DMO を通じて、関係団体と連携を強化	A
	周辺市町村との連携（広域観光ネットワーク）	阿賀北 9 市町村による広域観光体制を構築中	A
	民間事業者との連携	新発田 DMO を通じて民間事業者との連携による輸出業務などを実施	A
情報発信システムの構築	マスメディアの活用	マスコミが取り上げやすいパブリシティ活動を実施	A
	インターネットの活用	各種 HP や SNS を活用した情報発信の実施	A
	携帯電話等の活用	スマホアプリを活用した AR コンテンツを配信	A
	観光施設・商店街等の活用	商店街と連携したイベントを実施	A
地域ブランド化戦略	サポーター制度の導入	未実施	C
	既存支援団体の統合、拡充	未実施	C
	特産品・農産物の宅配システム	市観光協会 HP で E コマースサイトを開設	A

評価：

A 事業実施により目的達成 B 一部事業実施 C 事業未実施 D 事業の変更、廃止



情報交流、発信拠点の整備
(多言語対応観光情報センター)



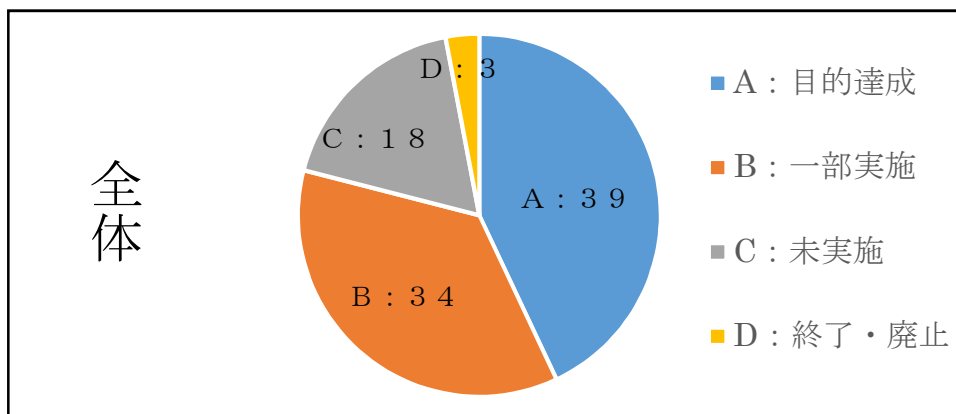
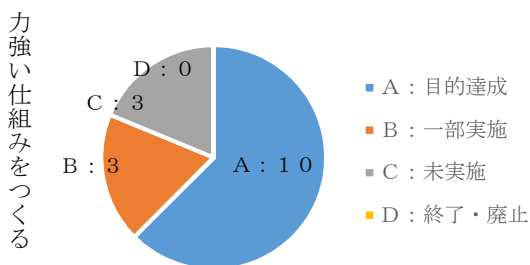
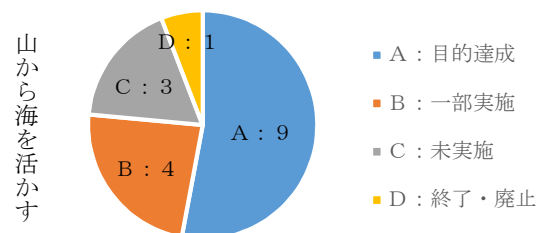
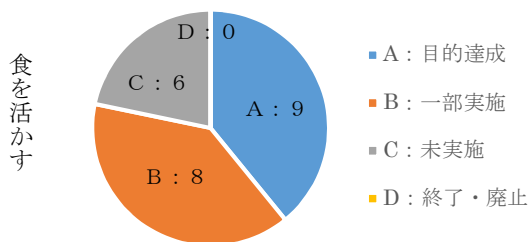
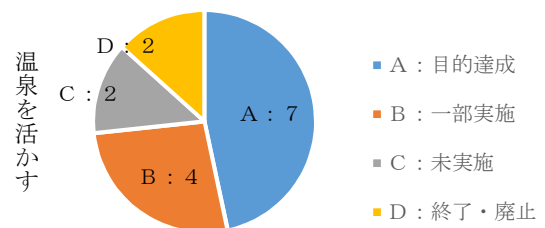
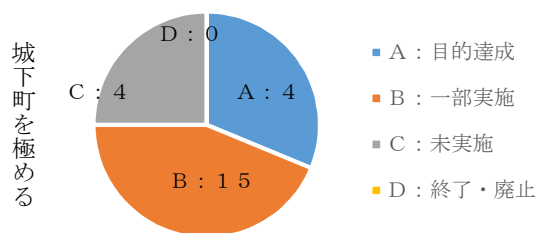
関係団体間の連携
(札の辻広場での物販)



E コマースサイトの開設

(3) 重点施策別事業の達成状況

施策名	事業数	目的達成 (A)	一部実施 (B)	未実施 (C)	終了・廃止 (D)
城下町を極める	23	4	15	4	—
温泉を活かす	15	7	4	2	2
食を活かす	23	9	8	6	—
山から海までを活かす	17	9	4	3	1
力強い仕組みをつくる	16	10	3	3	—
計	94	39	34	18	3



(4) 施策別事業の成果・問題と課題

①城下町を極める

・成果

当市は城下町新発田のシンボル、新発田城をはじめ、400年の歴史と文化、風情ある街並みを活かして、多くの観光客を呼び寄せるための取組を進めてきました。観光バスで来場する団体客だけでなく、個人客にも新発田の城下町風情を楽しんでいただくため、「新発田市散策マップ」や、寺町の歴史を知り回遊いただくためのマップ「シバテラ」をはじめ、当市出身の赤穂義士堀部安兵衛にちなんだ取組などを支援してきました。

また、民間企業による施設運営や市民団体による活動も活発化しており、歴史や文化・伝統などの観光資源を活用した取組は増加しています。

・問題点と課題

市街地を歩く観光客は多いとはいえません。まちの賑わいをつくり、観光消費の活性化と、市民との交流を促すためには、観光ガイドボランティアや市民団体による活動を促すとともに、飲食事業者や和菓子屋などの皆様との連携を深めていくことが必要となります。



足軽長屋



堀部安兵衛銅像

②温泉を活かす

・ 成果

当市の観光プラットフォームは、全国有数の温泉である月岡温泉です。月岡温泉に多くの観光客が訪れ、そこから、市内各地域への回遊を促していくことが、当市の観光振興戦略の基本的な方針となっています。月岡温泉では、平成26年から平成28年を開湯100年祭として、これからの100年を見据えて、歩いて楽しめる温泉街づくりに取り組み、若手旅館経営者が中心となって、温泉街の空き店舗を活用したユニークな店舗展開を進めたことで、温泉街を歩く観光客数は飛躍的に増加しました。

・ 問題点と課題

月岡温泉から市街地をはじめとする市内各地への回遊については、二次交通^(注3)の課題や各所の受入体制が整わないことなどから、いまだ十分な送客ができていないとはいえません。このことから、まずは、月岡温泉に来訪する観光客に対して、各地域の自然や景観、体験や交流ツールなどをPRするとともに、効果的な二次交通策の展開や、観光客受入体制整備などを進めていくことが必要となります。



開湯 100 年祭キックオフイベント



空き店舗改修事例
新潟地酒 premium SAKE「蔵」

注3 二次交通 …拠点となる空港や鉄道の駅から観光地までの交通のこと

③食を活かす

・ 成果

当市は山から海までの大いなる自然に囲まれ、清流加治川の恵みを受けた肥沃な農地では、米をはじめ、新潟県内一の生産量を誇る、アスパラガスや越後姫など高品質な農産物が生産されており、市内の飲食事業者と連携して「食のアスパラ横丁味めぐり」などのキャンペーンを通じ、多くの観光客を誘導し、「県内産アスパラガスといえば新発田」のイメージは市内外に浸透しています。

また、それらの農産物を使って製造される日本酒をはじめ和菓子などの特産品は市自慢の逸品であり、平成25年度には新発田ブランド認証制度をスタートし、県内外でのPRや販路拡大のための支援策を進めてきました。

「物のアウトバウンド」をスローガンに、平成28年度からは米の輸出に取り組み、新発田産米をアジア各国やアメリカに輸出しています。

これに併せ、農業体験などのツーリズムの一環として、台湾の観光客を対象に新発田の圃場で田植え体験を行い、収穫後に米1俵を受け取れる「米オーナー制度」の実施など、食を活用した観光誘客も進展しています。

・ 問題点と課題

行政をはじめ、関係機関や市民団体による食を活かした活動は、年々活発化してきていますが、一過性のイベント的要素が色濃く、イベント当日は多くの来場者による盛り上がりを見せますが、継続的な集客、観光誘客にまではつながっていません。このことから、今後は、日常的に新発田の食・食文化を体験できるための仕組みづくり、事業者や市民を巻き込んだ受入体制の構築が必要となります。



全国うまいもん横丁



食 King-Agakita+

④山から海までを活かす

・ 成果

山から海までの自然、景観、歴史、文化を観光資源として活用することが、市内各地域への回遊を促すことに直結することから、これまで、二王子岳や櫛形山脈・大峰山などの登山道整備を地域の皆様や関係団体と連携して進め、多くの登山客が当市を訪れています。

また、かつて長堤十里「世界一の堤桜」と謳われた加治川堤防の桜を楽しむジョギング大会「春RUN漫しばたジョギング大会」の開催をはじめ、大峰山桜公園や天然記念物椽平桜樹林における桜まつりなど自然や景観を活用した取組を進めてきました。

海洋資源の活用においては、藤塚浜・松塚漁港での販売イベントをはじめ、民間事業者によるマリンスポーツ体験なども盛んに行われています。

・ 問題点と課題

山から海まで自然、景観、歴史、文化などを観光資源とした取組は徐々に広がっており、民間団体による活動なども活発化していますが、観光客が自由にこれらの観光資源を回遊するためには、マイカーや観光バスでの移動が必要であるため、インバウンド客や首都圏、関西圏などから訪れる個人客の来訪は、少ない状況となっています。JRでは新発田駅からタクシーを活用したプランなども設定していますが、ニーズを十分に満たすものではなく宿泊地から各観光資源や市内回遊を促すための二次交通の整備が必要です。



加治川治水記念公園



藤塚浜海水浴場海開き

⑤力強いしくみをつくる

・成果

観光による回遊人口増や経済への波及効果を高めるため、企業や学校をはじめ多様な団体が連携して、観光を活用したまちづくりを進めることを目的に、平成28年に新発田市観光協会が事務局となって、新発田市観光地域づくり推進協議会を設立しました。

この組織は、観光に直接関連する、宿泊業や飲食業、バス事業者だけでなく、異業種や学校をはじめ、市民の皆様や関係機関、団体にも参画いただき、オール新発田体制によって構成されています。

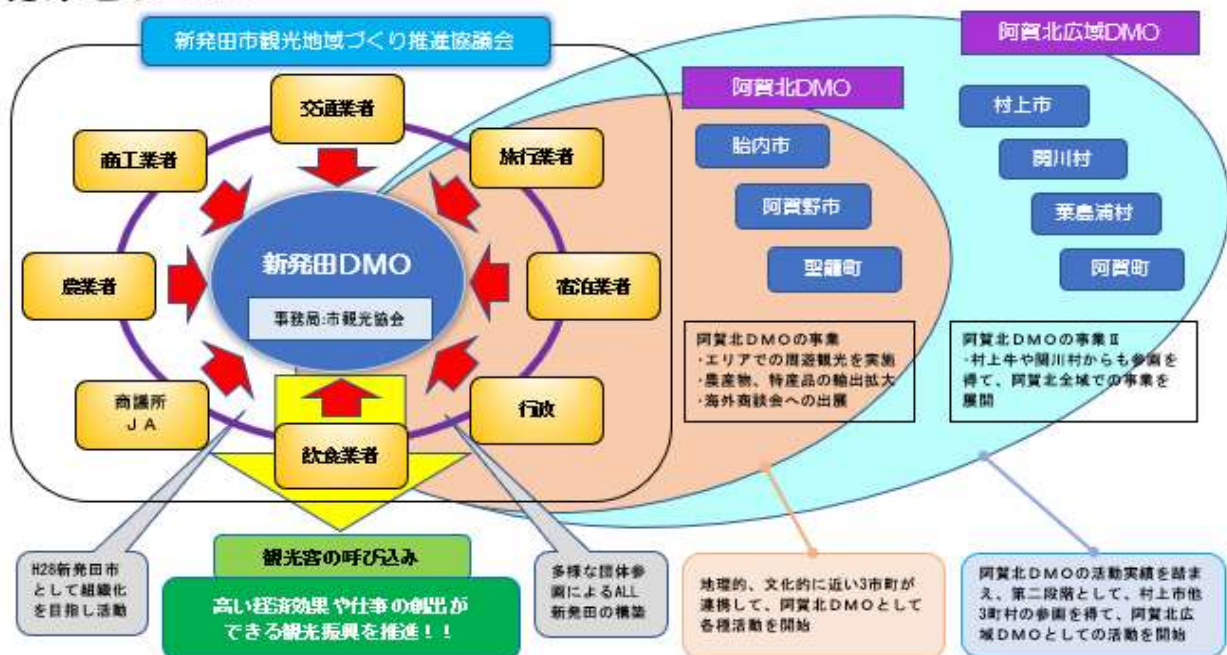
同協議会設立後は、稼げる観光地づくりの舵取り役となるべく、新発田市観光協会が観光地域づくり法人（DMO）として認定を受け、同協議会と協働で新発田版稼げる観光地づくり事業を進めています。

現在は、この新発田DMOが中心となって、地域資源の活用と磨き上げ、情報発信やPR、観光誘客などに加え、新発田産農産物や特産品などの輸出促進策なども進めています。

・問題点と課題

現在、国ではインバウンド誘客を観光振興の重点施策として、様々な支援メニュー、補助事業を実施し、当市においても、平成29年度から地方創生推進交付金を活用して、「人のインバウンド」「物のアウトバウンド」をスローガンとして、アジア地域からの観光誘客とそれに併せて、米、日本酒などの輸出促進策を進めています。インバウンド客の受入体制（通訳、案内板等）の整備や、輸出を促進するための、マーケティング調査やデータ分析、戦略づくりを行う人材の育成・確保が課題となります。

新発田DMO概念図と将来ビジョン



(5) 地区別計画の実施状況

6つの重点施策を進めるため、市街地だけでなく、各地区の自然や景観、歴史や文化を活かした取組を計画。その成果及び問題点と課題について検証します。



■地域の特性

地区区分	各地の特性
新発田市街地	・新発田市の中心地であり、交通・商業など都市機能が集積 ・新発田城や寺町など城下町としての歴史資源が多い
1. 五十公野・米倉・赤谷	・新発田藩と関わる五十公野と加治川流域、会津街道沿いの中山間集落 ・歴史資源、自然資源が豊富
2. 松浦・佐々木・豊浦	・新発田市街地と県都新潟市に隣接した農業地域 ・月岡温泉街
3. 川東	・市街地東部に位置、二王子岳をはじめ、姫田川扇状地に広がる農業地帯 ・ニノックススノーパーク、二王子温泉、大友稲荷などの資源が分布
4. 菅谷・加治	・楕形山脈東側を流れる坂井川や国道290号を軸とする中山間地域 ・菅谷不動尊、りんご園をはじめ、多くの自然資源が分布
5. 紫雲寺	・日本海と海岸沿いの旧街道に伸びる集落 ・県立紫雲寺記念公園の海洋性レクリエーション
6. 加治川	・国道7号、JR羽越線沿いの村落、加治川の扇状地に広がる穀倉地帯 ・加治川堤桜や国指定天然記念物の椋平桜樹林など桜の名所

前計画で示した新発田市の観光エリアと観光資源の結びつき

第1期基本計画では、中心市街地のほか市内を6地域に区分して、それぞれの特徴的な資源の掘り起こし並びに磨き上げにより、魅力的な観光ツールとして繋ぐことで多くの観光客を誘導し、賑わいをつくることを目的として計画を策定しました。

第2期基本計画では、これまでの活動成果を検証して、新たな視点や改善策などを加えることで、より効果的な成果を目指します。



(6) 計画の実施状況・成果と問題点・課題

①五十公野・米倉・赤谷地区

■方針と実施計画

1 米倉有機の里構想の推進と市内横断的展開

- ・有機農業による米倉ブランドの確立と販売PR
- ・交流施設、交流センターを活用した情報の発信、展示、販売、交流の展開
- ・地域住民の一層の理解と主体的行動の促進

2 城下町新発田市街地及び月岡温泉との連携

- ・市街地及び月岡温泉からのアクセス環境の改善
- ・連携を支援する効果的な交通サービスの整備

3 地域資源の有効活用と新たな宝の発掘

- ・地域の歴史、文化資源の保存と発掘
- ・五十公野や会津街道など街並みの保存・景観形成
- ・地域の豊かな自然環境の紹介と、自然レクリエーションの楽しさのPR強化

■実施状況と成果

方針	実施状況
1	米倉においては、地域の景観や食資源を活用し民間事業者と連携して「庭園ガストロノミーウォーク」などの活動が行われ地域と観光客の交流も進んでいます。
2	現状では未実施
3	民間事業者と連携して、五十公野公園、五十公野御茶屋などをめぐるツアーが企画され、多くの観光客が五十公野、米倉エリアに訪れています。また、市観光協会では、800年続く赤谷の奇祭どんつき祭りの見学ツアーを開催しており、リピーターも多い。

■問題点と課題

あやめまつりや五十公野御茶屋、赤谷どんつき祭りなど地域の観光資源を活用したツアーやイベントが開催されるようになりましたが、まだまだ眠っている観光資源、歴史資源が多くあります。

未利用資源を活用した新しい観光メニューの検討・開発、実施のための人材育成・確保が課題となります。

②松浦・佐々木・豊浦地区

■方針と実施計画

4 市街地や五十公野とのアクセス環境の整備

- ・聖籠新発田 IC、羽越本線月岡駅周辺の整備（修景、標識設置等）
- ・国道460号、290号のアクセス環境の改善（案内標識の設置）
- ・中心市街地とのシャトルバスや回遊タクシー等顧客ニーズに応じた交通サービスの検討

5 月岡温泉街を拠点とした広域観光ネットワークの形成

- ・月岡温泉の街並みづくりと周辺観光エリアの充実
- ・福島潟・市島邸～月岡温泉、カリオンパーク～剣龍峡の一体的 PR と活用
- ・月岡温泉周辺に広がる田園集落の観光資源としての活用策の検討

6 新たな観光資源の発掘

- ・ゾーン内に潜在する活用可能な観光資源の発掘と効率的な連携活用策の検討

■実施状況と成果

方針	実施状況
4	新発田市観光協会が、ピーチ航空（LCC（注4））の新潟空港到着に併せ、新発田市街地を経由して、月岡温泉に至る月岡温泉周遊ライナーを企画。前日午後5時まで申込受付しており、催行率も高く関西圏からの誘客が促進されています。
5	月岡温泉街の道路及び街路灯の美装化を年次計画で進めています。旅館の若手経営者の組織が温泉街の空き店舗に年次的に出店するお店が魅力的で、観光客に受けしており、足湯施設と合わせて温泉街の賑わい創出に一役買っています。
6	月岡温泉に隣接する荒川集落では、地域の自然や景勝（荒川山、剣龍峡）などを活用した取組なども実施されており、地域を巻き込んだ資源の磨き込みも進展しています。

■問題点と課題

コロナ禍以前には、月岡温泉の入込数は、温泉街の努力もあり、減少傾向に歯止めがかかりましたが、市島邸や刀剣伝承館・天田昭次記念館などの市有観光施設の入込は減少し続けています。

個々の施設の魅力アップも重要ですが、月岡温泉と連携した誘客策が課題となっています。また、新たな観光スポットの掘り起こしや三次交通（注5）の確保も欠かせません。

注4 LCC …ローコストキャリアの略

効率化によって低い運航費用を実現して、低価格かつサービスが簡素化された航空輸送サービスを提供する航空会社のこと

注5 三次交通 …複数の交通機関等を利用する場合の3種類目の交通機関のこと

③川東地区

■方針と実施計画

7 ニノックススノーパークの有効活用

- ・新発田や新潟市民を対象とした身近なスキー場としての機能拡充
- ・ninox ブランドのイメージ向上と PR
- ・韓国、中国等東アジアからの観光客に対応したサービスや案内システム充実

8 地域の特性を活かしたグリーンツーリズムの展開

- ・林縁部における観光体験農業の推進
- ・板山放牧場の活用案の検討

9 広域農道等のアクセス環境の整備

- ・観光ルートとしての整備（案内標識や休憩機能等の設置）

10 既存資源の活用と地域資源の発掘（観光メニューづくり）

- ・二王子温泉の拠点化やシーズンオフのスキー場の活用案検討
- ・大友稲荷、二王子神社等の伝統文化の保存・継承
- ・二王子登山等山岳レクリエーションの展開

■実施状況

方針	実施状況
7	市内や新潟市民だけでなく、近年、増加しているインバウンド客（香港、台湾）も気軽に訪れることのできるスキー場として PR や旅行エージェントの商談も積極的に行われています。
8	板山集落で毎年5月に開催される「春の夢まつり」を観光資源として、市観光協会で見学・体験ツアーを開催。市内外から多くの参加があるほか、台湾などからも参加があり、地域の伝統文化を体験する機会となっています。
9	現状ではアクセス環境の整備は進んでいません。
10	日本二百名山の霊峰として数えられる二王子岳の登山道整備や、二王子神社のトイレや山小屋の改修など、近年の登山ブームに合わせて整備を進めています。

■問題点と課題

ニノックススノーパークや二王子岳、地域の伝統行事の観光への活用は定着してきましたが、まだまだ改善や工夫の余地があります。地域の持続のためにもさらなる活用による活性化と交流人口の増加を図る必要があります。

④菅谷・加治地区

■方針と実施計画

1 1 菅谷不動尊周辺の観光環境整備

- ・周辺部の魅力ある景観形成

1 2 地域の特性を活かしたグリーンツーリズムの展開

- ・林縁部における観光体験農業の推進
- ・リンゴ園を活用した農村レクリエーションの展開

1 3 旧広域農道等のアクセス環境の整備

- ・観光ルートとしての整備（案内標識や休憩機能等の設置）
- ・案内標識等による分かりやすいアクセスの誘導

1 4 : 米沢街道の活用

- ・米沢街道沿いの集落保全と景観の形成

■実施状況と成果

方針	実施状況
1 1	新発田の始祖「佐々木三郎盛綱」などの地域の歴史資源を紹介したパンフレットなどの作成により、歴史ファンの取り込みを推進するとともに、菅谷不動尊での護摩体験なども体験観光として、旅行エージェントなどに提案し、モニターツアーなどを実施。
1 2	台湾ユーザーに向け、日本初の米オーナー制度を実施。新発田産米の輸出促進と併せ、地域の自然や米づくり環境をエージェントやバイヤー、観光客に PR することで、グリーンツーリズムを実施。
1 3	現状では未実施
1 4	現状では未実施

■問題点と課題

「佐々木三郎盛綱」などを紹介したパンフレットを作成・配布し、歴史ファンの獲得を進めましたが、歴史ファン以外にはなかなか「佐々木三郎盛綱」は浸透しませんでした。継続的かつ地道なPRが必要です。

「佐々木三郎盛綱」あるいは果樹などの食資源、櫛形山脈などの山岳資源は、隣接する加治川地区や胎内市にも深く関わっていますので、広域的な連携を図りながら進める必要があります。

⑤紫雲寺地区

■方針と実施計画

15 海洋レクリエーションの充実

- ・海浜レクリエーション機能の充実と PR
- ・海浜を利用したイベントの開催
- ・紫雲の郷の有効活用

16 松塚漁港の活用とブルーツーリズム^(注6)の展開

- ・松塚漁港を活用した漁業の振興と観光漁業の推進（海の「食」の普及）

17 自然・歴史資源の活用

- ・レンギョウ街道の沿道景観の充実
- ・堤桜遊歩道の活用
- ・野鳥をテーマにした自然景観、体験メニューの充実
- ・紫雲寺潟干拓物語をモチーフとした交流づくりの推進
- ・観光資源の発掘と案内・展示・交流機能の充実

18 アクセス環境の整備

- ・新発田市街地からのアクセス環境の改善

■実施状況と成果

方針	実施状況
15	藤塚浜海水浴場では、民間事業者がフライボードやバナナボートなど、最新のアクティビティを展開しているとともに、安全確保のための監視・救命対策も整備されています。
16	松塚漁港の直売所「おさかな市場」を活用して行われる「さかなまつり」には、市内外から多くの消費者が集まり、賑わっています。
17	加治川堤桜を活用して開催される「桜まつり」は毎年、外国人を含む多くの観光客、見物客で賑わいます。また、加治川堤防で行われる「春RUN漫しばたジョギング大会」も「桜」という観光資源の活用策として開催され、市内外から多くの愛好家に参加する大会となっています。
18	現状では未実施

■問題点と課題

市温泉活用施設「紫雲の郷館」の利用者数が漸減傾向です。併設する体育施設や県立紫雲寺記念公園全体、隣接する藤塚浜やオートキャンプ場、松塚漁港のおさかな市場や加治川の堤桜などとの一体的な誘客により利用者数を増加に転ずる必要があります。

注6 ブルーツーリズム …漁村の自然・生活・文化を広く開放し、都市との交流により、地域振興を図っていく方策

⑥加治川地区

■方針と実施計画

19 加治川堤桜の活用

- ・堤桜環境の整備充実
- ・堤桜についての情報発信と PR の推進

20 櫛形山脈の自然と歴史の活用

- ・大峰山ハイキングコースの充実
- ・地区の自然や歴史に関する案内・解説板の充実、遺跡公園整備の推進
- ・資源の発掘、再発見と案内・展示・交流機能の充実

21 田園景観の保全と活用

- ・田園と調和した景観スポットの配置
- ・ホテルの里の PR

22 観光の拠点づくり

- ・「道の駅」における交流機能の充実

■実施状況と成果

方針	実施状況
19	大峰山桜公園や椋平桜樹林を活用し、「道の駅加治川」と連携して「桜まつり」を開催。国の天然記念物「桜樹林」は自然交配が進み、保全のための取組が急務となっています。
20	新発田の始祖「佐々木三郎盛綱」を活用するため、胎内市と連携してマップを作成。歴史ファンの取り込みを進めています。
21	平成 29 年度から「人のインバウンド」「物のアウトバウンド」として、海外からの観光誘客と農産物輸出を展開。新発田産コシヒカリは「新発田の殿様献上米」として、台湾、香港、シンガポール、ハワイ、ニューヨーク、ベトナムへ輸出しています。
22	「道の駅加治川」を観光客と市民の交流拠点として整備するため、リニューアルを行います。

■問題点と課題

「道の駅加治川」のリニューアルを実施し、地元住民や市民だけでなく、阿賀北地域の観光交流拠点の一つとして最大限活用していくことが必要です。

また、隣接する菅谷・加治地区や胎内市と連携して、櫛形山脈の特色（山桜、登山道、日本一小さい山脈）を最大限活用した観光メニューを検討・開発する必要があります

6 第2期基本計画の基本方針と具体的なターゲット

本計画は、第1期基本計画における「みがく」「つなげる」「ほりおこす」の三つの計画の視点並びに前期計画から踏襲した5つの重点施策に「観光施設を活かす」という新たな施策展開を加え、前項での各事業における成果や問題点・課題に基づき、当市での今後の観光振興における方向性と各施策や各地域における事業を示すものとします。

第1期観光振興基本計画（平成19年3月策定）

- 基本方針：新発田市の固有資源を分類して5つの重点施策を設定
 - 誘客：1 新潟市 2 周辺地域 3 広域 4 国外（※注）
 - 地区別計画：新発田市街地及び6つの地域・エリアでの事業計画を設定
- ※注 集客ターゲットの数値1から4は誘客を進めるための優先順位

事業の実施状況や効果などを踏まえ、新たな展開とインバウンドや新型コロナウイルス感染拡大などの観光情勢の変化に対応した計画とする。

第2期観光振興基本計画（令和3年8月改定）

- 基本方針：5つの重点施策を踏襲し、新たに「観光施設を活かす」という施策展開を加え、資源活用的高度化を進めることで観光、農業、商工などの連携による相乗効果を創出する。
- 誘客：優先順位は定めないが、コロナ禍では新潟市や県内若しくは近県をターゲットとし、アフターコロナでは観光消費額の高い海外や関西圏などからの誘客にも注力する。
- 地区別計画：地区別計画を踏襲しつつ、新たに策定される「新発田市文化財保存活用地域計画」とも連動し、それぞれの地域特性を活かすことで、更なる相乗効果を創出する。
- 実施体制：事業を進めるための実施体制として、新たに新発田DMOを加える。

第2期基本計画では、本市の推進する「人のインバウンド」「物のアウトバウンド」として、新たに中国、台湾、韓国などからのインバウンド誘客策と、それに合わせた新発田産米など農産物、特産品などの輸出促進によるアウトバウンド策を加えます。

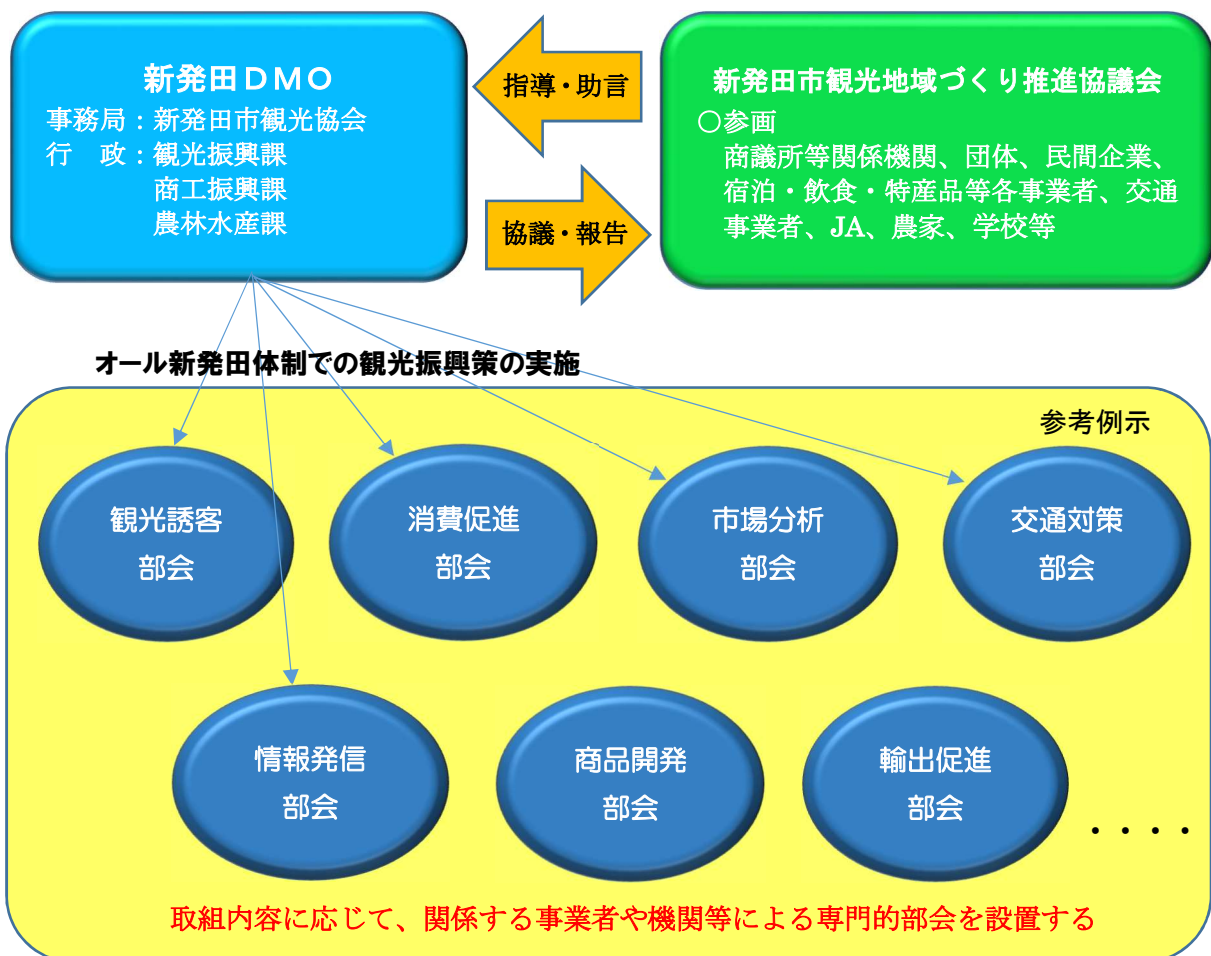
さらに阿賀北9市町村による広域観光圏の創出や事業の実施体制として、新発田DMOによる取組の方向性などを示します。

7 第2期基本計画の実施体制と事業の目標と評価方法

(1) 事業の実施体制

本計画を進めるための実施体制は、平成28年度に市民や関係機関、企業、事業者の参画のもと設立された「新発田市観光地域づくり推進協議会」が中心となって推進することとします。

それぞれの事業については、新発田市観光協会が事務局となる「新発田DMO」が事業の推進策や進捗状況、問題点・課題・成果などを管理し、必要に応じて協議会に協議・報告し指導・助言を受けることとし、事業や課題などに応じて専門的知見を有する団体や関係者による部会を設置することで、迅速な取組体制を確立することとします。



(2) 基本計画の実施時期

①実施時期の区分

社会的変化や達成度合いにより前期4年経過後、必要に応じて計画を見直します。

前期R3～6年度（4年）

後期R7～10年度（4年）

②実施計画の策定

具体的な個別事業や進め方などについては、実施計画を策定し、具体的な取り組み内容、行動指針を策定して事業に取り組むこととします。

(1) 事業の目標と評価方法

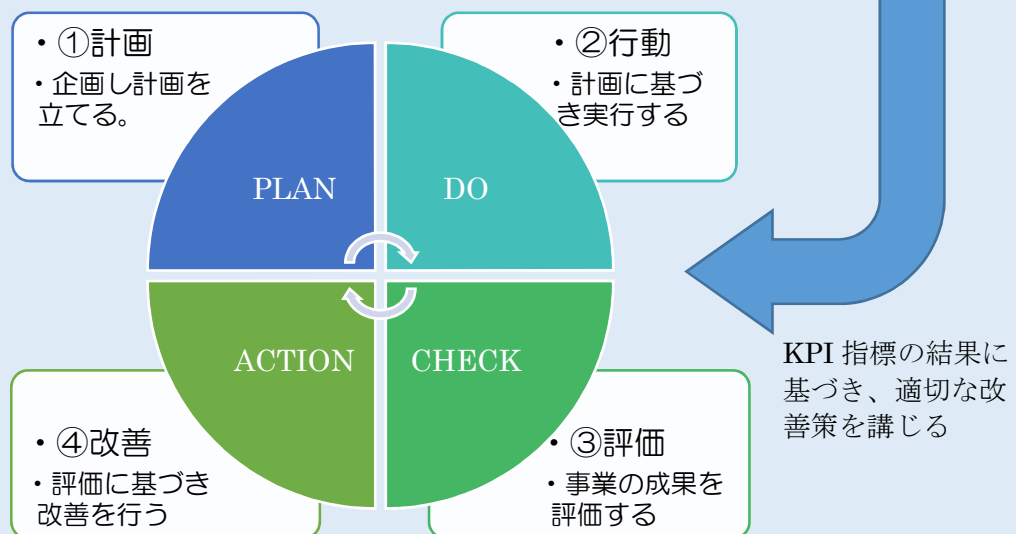
■PDCA サイクルによる事業評価制度の確立

本計画による事業の実施にあたっては、実現性、波及効果、費用対効果、継続性などの観点による明確な KPI 指標（重要業績評価指標）を定め、客観的に事業の成果を評価するとともに、PLAN（計画）→DO（実行）→CHECK（評価）→ACTION（改善）のサイクルによる事業評価を行うことで実効性を高めていくこととします。

KPI 指標（例）

重点施策	事業内容	観光客数（KPI 指標）	
		目標	結果
温泉を活かす	温泉街を整備して観光客を増加させる	9,000 人	10,000 人
食を活かす	特産品メニューで観光客を呼び込む	5,000 人	3,000 人

PDCA サイクル（例）



8 第2期基本計画の新たな施策展開と事業

(1) 新たな施策展開の考え方

第2期基本計画の基本方針は、ほぼ第1期基本計画の重点施策を踏襲することから、主な区分、施策展開を設定します。また、その実施時期は、前期と後期の2つの期間として目標時期を定め、前期当初は新型コロナウイルスに対応して観光業界を下支えします。

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応

① 新型コロナウイルス感染症による観光への影響

令和元年、中華人民共和国におけるパンデミックに端を発した新型コロナウイルス感染症は我が国を含む世界全体へと蔓延し、欧米などではロックダウンを余儀なくされるなど、大きな爪痕を残しながら、現在も収束の兆しは見られません。

この新型コロナウイルス感染症の影響により、世界各国からの訪日旅行者はほぼ皆無となりました。国内においても旅行のキャンセル、予約控えや外出自粛の影響が顕著であり、観光需要は大きく減少し、全国の旅行業、宿泊業をはじめ地域の交通事業や飲食業、物品販売業など多くの産業に深刻な影を落としています。

当市においても影響は深刻であり、東日本大震災からようやく立ち直りを見せた市内観光施設の賑わいを、跡形もなく奪っていきました。特に令和2年3月から5月にかけては市内宿泊業や飲食業において、売り上げが前年比95%減となるなど、ほとんど売り上げのない状況が見られました。その後、当市の支援策に加えG・O・T・Oトラベル事業や県の「つなぐ、にいがた。」事業の実施により、一旦は持ち直しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大「第3波」の影響により、再び消費が落ち込みをみせており、令和3年8月に至っても光は見えていません。

また、オンライン会議やテレワークの急速な普及により、観光だけでなく、ビジネスでの移動や宿泊も減少しています。

このため、感染拡大防止と社会経済活動の両立が求められる中で、従来とは異なる行動様式に対応した、安全・安心な新しい旅のスタイルが求められています。

② 新型コロナウイルス感染症への対応

(i) 新しい旅行スタイルへの適応

新型コロナウイルス感染症の治療薬やワクチンの開発・普及により感染リスクに対する不安が完全に払しょくされるまで（ウィズコロナ）の期間は、感染症の存在を前提に感染拡大防止と観光振興の両立を図る必要があります。

当市においては、観光関連事業者に対して業種ごとの「感染拡大予防ガイドライン」を活用して、徹底した感染防止対策を呼びかけるとともに、旅行者に対しても「新しい生活様式」における、安心して楽しい旅行のための「新しい旅のエチケット」の普及・啓発に努めています。

(ii) 観光の再生・復活に向けた対応

観光需要の回復に向けて感染防止対策を徹底しながら、当市では令和2年5月7日に、まずは市民限定による宿泊プランを打ち出し、その後、感染状況を見極め、同年6月には全国

向けのプランへと切り替え、順次誘客を進めてきました（詳細はP 5～6）。

また、インバウンドについては政府による旅行者の入国制限や水際対策の動向を踏まえつつ、国・地域ごとの感染の収束を見極めながら、誘客可能なところから段階的に回復を図っていきます。

現在、コロナ禍も相まって、コロナ以前から進んでいた団体旅行から個人・友人・家族旅行へのパラダイムシフト（注7）が加速しております。

また、アフターコロナでは、一時的な観光需要の爆発も予測され、それらに対応可能な体制整備も必要と思われます。

コロナ以前においても、行政側では、団体客を誘客するために各エージェントに対してトップセールスを行ってまいりましたが、団体客から個人客へとシフトする時代にあっては、各エージェントも実際の店舗からOTAと呼ばれるインターネット上の販売に注力してきており、むしろ、行政もインターネットを介した誘客、つまりは情報発信においてSNSなどを十分活用して個人客へアプローチすることが重要になってきます。

また、着地型観光として、当市ならではの多様な体験プログラムを企画し、当市を訪れた観光客自らがそうした体験プログラムを選択し、楽しめる仕組みをつくり、旅先での自由を求める個人客に、ワーケーション（注8）やブレジャー（注9）なども含め、対応していくことも必要となります。

具体的な観光振興の在り方については、ウィズコロナの時期を経て、地域住民も含めた人々の働き方・ライフスタイルや観光に対する意識がどう変化し、観光のニーズにどのような影響を与えるか、また、それに応じて観光関連事業者が提供するサービス等の内容がどのように変化していくかを見極める必要があります。

よって、アフターコロナにおける観光について、現時点で確実な見通しを持つことは困難ですが、少なくとも、上記のようなシフトの必要性は推測されます。

そこで、当市としては、次ページ以降で詳述する施策を推進し、観光コンテンツの付加価値を高めることで、観光の再生・復活に結び付けていくこととします。

注7 パラダイムシフト …その時代や分野において当然のことと考えられていた認識や思想、社会全体の価値観などが革命的もしくは劇的に変化すること

注8 ワーケーション …「ワーク」（労働）と「パケーション」（休暇）を合わせた造語で、リゾート地や温泉地などで余暇を楽しみつつ、仕事を行うこと。

注9 ブレジャー …「ビジネス」（仕事）と「レジャー」（余暇・休息）を合わせた造語で、業務での出張先で、滞在を延長するなどして、業務の後に旅行も楽しむこと

(3) 具体的施策と実施時期

①城下町を極める

城下町の歴史や街並み、風情や文化は当市を代表する観光素材であり、その活用が市街地回遊や賑わいづくりを進めるうえで、重要なものの一つとなります。

第2期基本計画では、第1期基本計画策定後に計画された蔵春閣の移築をはじめとする歴史的建造物の活用など、市民の皆様や民間企業等との連携による活性化を進めることで、市街地のみならず、当市全体の魅力づくり、観光地としてのイメージづくりを進めます。

区 分	施策展開	時期
回遊性の向上	・二次交通など移動手段(周遊バス、レンタサイクル、人力車運行等)の確保による利便性の向上 ・豊富な歴史的資源(史跡、建造物、人物、庭園など)を巡る「まち歩きツアー」等の企画及び実施 ・蔵春閣など新たな観光資源を活かした歴史ロード等の整備 ・修学旅行等の教育旅行の誘致と受入体制整備 ・観光拠点とその周辺の観光客受入体制の確立	前期
		通期
		後期
		前期
		通期
満足度の向上	・多言語に対応した観光案内所機能の拡充 ・観光ガイドボランティアの育成と多言語対応(通訳案内士の養成等)による接客サービスの向上 ・地域特産物や地域固有の資源を活かした体験活動(和菓子づくり等)の提供 ・クルーズ船寄港等に対応した観光商品(オプションツアー)の企画 ・歴史的な街並みの保存とまち歩きスポット等の整備	前期
		前期
		通期
		前期
歴史と文化が香る賑わいの創出	・歴史資源、人文資源、民俗文化等の新しい素材を活かした観光商品(庭園街道、■■■ツーリズム等)の企画 ・民間企業や市内顕彰団体等との連携やイベント等の実施 ・歴史的建造物を活用した MICE(企業のミーティングやセミナー、国際会議、展示会、見本市、イベント等)の推進 ・コロナに対応した新発田まつりのさらなる魅力創出としばたっ子台輪を含む、しばた台輪継承支援	前期
		通期
		後期
		通期
人材育成	・観光ガイドボランティア協会の育成・支援 ・高校生や大学生、一般市民向けのガイド養成研修の実施	通期
		後期
情報発信の強化	・日本語だけでなく多言語による情報発信の拡充 ・SNS等の多様な媒体による情報発信 ・城下町の風情を伝える観光案内標識等の充実 ・堀部安兵衛、大倉喜八郎、落谷虹児などの歴史的人物を活用した情報発信	前期
		前期
		後期
		通期

目標指標 (KPI)	現状		令和 6 年度
温泉周遊ライナーの利用者数	(R1 年度)	1,378 人	2,200 人
観光ガイドボランティアの予約件数	(R1 年度)	109 件	130 件
新発田まつり来訪者数	(R1 年度)	189,000 人	192,000 人
観光ガイドボランティア新規会員数	(R1 年度)	6 人	8 人
SNS フォロワー数	(R2.1.29)	2,641 人	3,300 人
SNS 投稿件数	(R1 年度)	255 件	300 件

②温泉を活かす

当市には県内随一の温泉地、月岡温泉をはじめ、官民併せて5種の泉質、7か所の温泉施設が運営されています。

とりわけ、月岡温泉においては、合同会社ミライズが手掛ける空き店舗活用、ファサード修景^(注10)、市が取り組む道路の美装化などにより、温泉街の魅力が増し、温泉街を歩いて回る観光客が飛躍的に増加しています。

このように、月岡温泉のさらなる魅力向上を進め、宿泊プラットフォームとすることで賑わいを創出するとともに、市内各地に点在する温泉資源なども活用し、全域への回遊を促していきます。

それとともに、新型コロナウイルス感染拡大の波に打ち勝てるよう業態変化を行う月岡温泉などの市内旅館・ホテルを国の補助制度を活用して後方から支援します。

区 分	施策展開		時期	
温泉街の街並み環境の向上	・温泉街の景観整備(美装化等)の加速化		前期	
	・空き店舗活用等への多面的支援		通期	
	・Wi-Fi 環境の拡充や公衆トイレの洋式化		前期	
	・新たな観光スタイルや潮流(インスタ映え等)に即した景観整備の促進		前期	
観光プラットフォームの基盤強化と価値の向上	・各旅館・ホテルでの業態変化に伴う施設改修等への支援		前期	
	・SNS等多様な媒体を活用した積極的な情報発信		通期	
	・利便性向上及び広域周遊に向けた交通アクセス手段(二次交通等)の拡充		前期	
	・月岡温泉を拠点とした阿賀北広域観光周遊ルートの造成		前期	
	・「月あかりの庭」を起点とした夜のまち歩きや飲食の促進		前期	
	・月岡温泉芸妓などの伝統文化を活かすプラン造成		前期	
	・健康、美容、癒しなどの新たな顧客満足度プログラムの開発		後期	
	・最先端ICT(AR／VR)を活用した観光伝達性の向上に向けた先駆的取組の検討		後期	
	・観光施設や近隣地域活動・行事と結び付けた新たな観光商品の造成		後期	
インバウンド観光客の誘客促進	・アジア圏を中心とした新たなターゲット(地域や客層等)への積極的プロモーション活動の強化		前期	
	・多言語の観光パンフレット作成や案内看板標識の設置、Web サイトの作成によるインバウンド受入環境整備		前期	
	・クルーズ船寄港等の観光商品(オプションツアー)の企画		前期	
目標指標(KPI)		現状	令和6年度	
道路美装化の進捗率		(R1 年度)	48.4%	70.0%
月岡温泉の入込数		(R1 年度)	566,356 人	580,000 人
外国人観光客の宿泊数		(R1 年)	7,627 人	8,000 人

注10 ファサード修景 …良好な景観を形成するため、建築物の正面の外観を周辺の景観と調和させること

③食を活かす

当市は、「人のインバウンド」「物のアウトバウンド」を観光振興による経済活性化の重点施策としており、新発田の食や特産品を味わっていただき、土産物として購入いただくとともに、輸出にまで繋げていくための取組を進めていきます。

区 分	施策展開	時期		
食と観光の相乗効果の向上	・当市のブランド化を推進するための農産物・加工品等の輸出促進及び支援	後期		
	・道の駅加治川のリニューアルに伴う食のPRと誘客に繋がる地域特産品の考案	前期		
	・泊食分離による市街地飲食回遊を促す体制の構築	後期		
	・札の辻広場での物産販売をはじめとしたインバウンド観光客への新発田ブランド認証商品などの名産品PR	通期		
	・歴史ある和菓子文化の継承支援とそれらを活かした体験型旅行商品の造成	通期		
地場食材を活かした観光集客力の向上	・地域食材を活用した観光体験商品(米オーナー制度)による誘客促進とブランド化による魅力向上	前期		
	・道の駅加治川をはじめとした観光施設における地場産や地元食などのPR	前期		
	・地域特産(新発田牛、アスパラガス、イチゴ越後姫、日本酒等)を活かした商品の宣伝強化	通期		
	・酒蔵及び和菓子文化の魅力発信による誘客の促進	前期		
	・地域特産品の観光客向けリブランディング及び販売促進	通期		
	・観光に結び付く地場食材の掘り起こし	通期		
	・インバウンド観光客の国籍に対応した食事の検討(ハラル対応等含む)	後期		
食イベントによる賑わい創出	・全国雑煮合戦をはじめとした食イベント等による誘客促進	通期		
	・関西や関東などでの商談会等による地元食材の魅力と宣伝の強化	通期		
目標指標(KPI)		現状	令和6年度	
新発田 DMO 活動による輸出金額		(R1 年度)	53,200 千円	80,000 千円
酒蔵見学者数		(R1 年度)	46,563 人	47,050 人
米オーナー制度利用者数		(R1 年度)	14 人 27 口	40 人 40 口
全国雑煮合戦入込数		(R1 年度)	25,000 人	29,000 人

④山から海までを活かす

二王子岳や大峰山などの山岳資源や白砂青松と形容される藤塚浜などの海洋資源、加治川地域をはじめ各地域の桜、あやめなどの自然資源の活用や、季節ごとの各地の行事や祭り、催事などの掘り起こしなどにより、多くの観光客が新発田市内を回遊して交流が行われるよう取り組みます。

区 分	施策展開	時期
魅力向上と情報発信力の強化	・多言語かつ特色や魅力を効果的に掲載したパンフレットやマップ等の作成による情報発信 ・SNS等を活用した情報発信の迅速化 ・阿賀北地域と連携した広域一体となった情報発信 ・地域固有の伝統行事や催事等の情報発信 ・各地域に潜在している観光資源の再発掘 ・映画やテレビ等の撮影誘致	前期 前期 前期 前期 後期 通期
楽しめる環境の創出	・阿賀北地域の自然資源を活かす広域周遊の促進 ・山岳資源の活用による登山やハイキング客の誘客促進 ・藤塚浜海水浴場の安全体制の維持及び海水浴客の誘致 ・自然資源を活用した体験型プランなどの造成 ・桜資源の活用によるイベントの充実 ・地域の自然資源と市街地観光を結ぶ回遊性の向上	前期 前期 前期 通期 後期 後期
良好な環境整備の推進	・安全な登山道や遊歩道、海水浴場等の維持管理 ・良好な環境整備のためのボランティア確保や後継者の育成 ・大峰山桜公園等の桜をはじめとする自然資源の保護 ・山岳や海洋資源を楽しむための公衆トイレや看板等整備 ・広域的な自然資源を回遊するための二次交通等の検討	通期 後期 前期 後期 後期
目標指標 (KPI)		令和 6 年度
SNS フォロワー数	(R2.1.29) 2,641 人	3,300 人
SNS 投稿件数	(R1 年度) 255 件	300 件
FC の誘致件数	(R1 年度) 2 件	4 件
阿賀北9市町村の観光入込数	(R1 年度) 8,714,057 人	8,765,000 人
市内登山客数	(R1 年度) 45,330 人	46,100 人
藤塚浜海水浴場利用者数	(R1 年度) 50,180 人	51,200 人

⑤力強い仕組みをつくる

観光による地域づくり、経済効果を創出するためには、これまでの行政や観光協会が主導する事業から、民間団体や企業をはじめ多数の関係者・団体を巻き込んで、オール新発田体制での観光振興が必要となります。

本計画では、新発田DMOを事業実施の中心的な役割として位置づけ、DMOの特性を活かして、企業や民間団体が担うことが難しい役割を担いつつ、取組を進めることとします。

区 分	施策展開	時期
新発田DMOによる観光振興	・観光地域づくり法人(DMO)と行政の連携による運営体制の構築 ・観光地域づくり法人(DMO)として関係団体、機関、民間企業、市民と連携した観光振興策の推進 ・インバウンド誘客の推進と受入環境の整備と推進 ・ふるさと納税制度の活用や民間企業との連携による持続的・安定的な財源確保の仕組みづくり	前期 前期 前期 後期
阿賀北地域における広域観光の推進	・定住自立圏(胎内市、聖籠町)との広域観光の推進 ・阿賀北市町村との連携による広域観光ビジョンの課題整理 ・地域の観光資源を相互利用した長期滞在型観光の推進 ・阿賀北地域で一体となった広域観光のプロモーション活動の強化	前期 前期 前期 通期
市民や民間企業・団体等の育成・支援	・観光関連団体や歴史継承団体の活動や組織の育成支援 ・適切な維持管理を継続するためのボランティアの確保や後継者の育成 ・観光、農業、商業間の相互連携による産業活性化 ・出前講座やシンポジウム、ワークショップ等の開催による観光意識の醸成と住民参画の促進 ・観光資源継承のための子どもたちへの郷土愛の醸成	通期 後期 後期 通期 後期
目標指標(KPI)		令和6年度
外国人観光客の宿泊数	(R1年) 7,627人	8,000人
阿賀北ゴルフ三昧利用者数(外国人)	0人	100人
阿賀北9市町村の観光入込数	(R1年) 8,714,057人	8,765,000人

⑥観光施設を活かす

観光施設の魅力向上のため、各種の展示や体験事業などを企画するとともに、周辺地域や関連団体、市民との連携による活用策を進めます。

また、市民ボランティアなどの養成を進めることで、「市民が支える観光施設」に向けた体制の整備を進めます。

区 分	施策展開		時期
良 好 な 施 設 環 境 の 維 持 ・ 運 営	・適切な維持管理の継続及び維持管理費削減の検討		通期
	・インバウンド観光客のための施設案内表示や解説等の多言語化の推進		通期
	・来訪者の満足度向上に向けた解説能力向上		通期
	・最先端ICT(AR／VR)を活用した新しい案内方法の導入研究		後期
誘客促進	・各施設の特徴を活かした魅力的な企画展やイベントの開催		通期
	・近隣市町村や関係団体等と連携した観光誘客の推進		通期
	・施設間回遊や広域周遊を促す仕組みづくり		通期
	・学校統合に伴う空き校舎の観光施設へのリノベーションの検討		前期
観 光 施 設 の 拠 点 化	・道の駅加治川リニューアル等による交流人口の拡大及び広域周遊の促進		前期
	・産業連携(観光、農業、商業等)した拠点整備による経済効果の促進		前期
	・阿賀北地域の観光施設が連携した取組の推進		前期
	・他県や県内など広域で観光施設が連携したツアー商品造成		後期
情報発信	・誘客を促すための効果的かつ継続的な情報発信		前期
	・阿賀北地域の観光施設が一体となった情報発信の研究		後期
	・SNS等を活用した新たな情報発信の導入		後期
	・リピーター確保のためのリピーター特典の考案やメルマガシステムなど有効な情報発信の研究		後期
目標指標 (KPI)		現 状	令和 6 年度
市有観光施設の入込数		(R1 年度) 20,509 人	21,200 人
道の駅加治川の入込数		(R1 年度) 166,402 人	195,000 人
SNS フォロワー数		(R2.1.29) 2,641 人	3,300 人
SNS 投稿件数		(R1 年度) 255 件	300 件

9 第2期基本計画の地区別計画

①五十公野・米倉・赤谷地区

■方針と実施計画

方針1 自然資源と地域の特色を活用した観光づくり

- ・焼峰山、俎倉山、蒜場山、湯の平温泉など山岳資源の魅力発信及び環境整備
- ・地域の伝統食の提供やかまくら体験など地域と連携した観光メニューの検討
- ・内の倉ダムインフラツーリズムの情報発信や滝谷森林公園キャンプ場利用者の取り込みなど新たな観光周遊コースの創出
- ・短期滞在施設「新縁（しんえん）」を活用したワーケーションの推進

方針2 地域の観光資源を活かした誘客促進

- ・あやめまつり等のイベントの充実と赤谷どんつき祭りなど地域の魅力発信
- ・旧会津街道の歴史資源を活かした誘客策の考案とガイドの人材確保

方針3 歴史資源と観光施設を活用した関係人口・交流人口の促進

- ・米倉有機の里交流施設運営協議会や地域と連携した行事等の実施及び支援
- ・五十公野御茶屋や米倉地域の名庭、石積水路を巡る庭園周遊観光の促進
- ・阿賀町や会津地域と連携した広域的な歴史資源の活用を検討

②松浦・佐々木・豊浦地区

■方針と実施計画

方針1 月岡温泉の魅力向上策の推進と誘客促進

- ・道路の石畳化などによる情緒あふれる景観整備の促進
- ・SNSをはじめとした多様な媒体による情報発信力の強化
- ・「歩きたくなる温泉街」の積極的プロモーション

方針2 地域資源の情報発信の充実と魅力向上に向けた環境整備

- ・剣龍峡の魅力発信の強化及び荒川集落や月岡温泉などと連携した地域活性化事業の促進支援
- ・新潟市とまたがる福島潟の一体的活用と広域連携の促進
- ・東京市島邸からの寄贈品を活かした魅力向上策の展開

方針3 観光案内の充実と観光者利便性の向上

- ・駅や新潟空港からの二次交通の確保と広域周遊に向けた三次交通対策の研究
- ・現代の観光動向に見合った案内標識の設置や主要幹線道路等の修景
- ・観光客用トイレの洋式化等の整備並びに月岡温泉街の歩行者安全対策の推進

③川東地区

■方針と実施計画

方針1 自然資源を有効活用した観光の充実

- ・日本二百名山「二王子岳」登山道の魅力発信と環境整備の継続
- ・冬季のアクティビティ（ニノックススノーパーク）の賑わいの充実と創出

方針2 地域の伝統行事や地域特性を活かした誘客推進

- ・「板山春の夢まつり」や大友稲荷「大友初午」などの地域行事と連携した誘客促進
- ・新発田市食品工業団地への企業視察の誘致や産業観光の推進

方針3 新たな観光メニューの研究

- ・二ノックススノーパークと月岡温泉や市内観光施設等と連携した取組の推進
- ・農業・農村・農泊体験等の観光メニュー化の研究

④菅谷・加治地区

■方針と実施計画

方針1 歴史資源や地域行事を活かした観光地づくりの推進

- ・菅谷寺節分会をはじめとした地域伝統行事の情報発信の強化
- ・加治城跡や佐々木三郎盛綱などの歴史資源の情報発信並びに活用の検討

方針2 地域特性と食を活かした賑わいの創出

- ・地域活動団体（ABODE 菅谷）との連携による地域づくりの促進
- ・櫛形山脈を活かしたレクリエーションや登山、ウォークイベント等の開催
- ・田植えなどの農業体験や果実の収穫体験等による誘客推進

方針3 近隣市との連携及び観光資源の環境整備

- ・櫛形山脈が横断する胎内市との連携による観光情報発信と広域周遊の推進
- ・大峰山登山道の適切な維持管理及び人材の確保
- ・フルーツライン（胎内市に繋がる広域農道）でのサイクリングイベント等の研究

⑤紫雲寺地区

■方針と実施計画

方針1 海と天然温泉を活かした誘客促進

- ・安全が確保された藤塚浜海水浴場の魅力発信と誘客推進
- ・市温泉活用施設「紫雲の郷館」を広域観光の立寄りスポットとした誘客促進
- ・松塚漁港を活用したイベント（さかな祭り等）の開催による賑わい創出

方針2 自然観光資源を活かした地域振興

- ・加治川治水記念公園や加治川堤桜の桜イベントの充実と情報発信
- ・加治川堤桜やレンギョウ街道から海までの健康ウォーク行事等による地域活性化

方針3 関係団体等と連携した交流人口拡大と観光施設の維持管理

- ・県立紫雲寺記念公園や施設（キャンプ場、バーベキューエリア等）と連携した観光による交流の促進
- ・県立紫雲寺記念公園体育施設と市温泉活用施設「紫雲の郷館」が連携した各種合宿やスポーツツーリズム等の誘致
- ・市温泉活用施設紫雲の郷館の源泉の維持管理と適切な運営

⑥加治川地区

■方針と実施計画

方針1 櫛形山脈の特色を活かした魅力ある観光地づくりの推進

- ・大峰山桜公園や椋平桜樹林などの自然や桜資源の魅力発信と保全管理
- ・日本一小さい山脈の特色を活かした登山やトレイルラン等の実施と胎内市と広域連携した事業の推進
- ・大峰山桜公園や道の駅加治川などでの桜資源を活用したイベント等の実施

方針2 道の駅加治川の広域周遊観光に向けた拠点づくり

- ・道の駅のリニューアルや運営改革による新たな機能を持った拠点整備の推進
- ・地元農産物や地域特産物の販売など商業機能強化による地域活性化の促進
- ・インバウンドや個人観光者等に対応する観光案内所の形成

方針3 地域特産を活かした観光資源の情報発信と環境整備

- ・地域ブランド「加治川さくらピクニック」の情報発信による地域プロモーションの推進
- ・道の駅リニューアルに伴うパン工房の新設と地域特産品の考案
- ・大峰山登山道や大峰山桜公園の適切な維持管理と人材確保

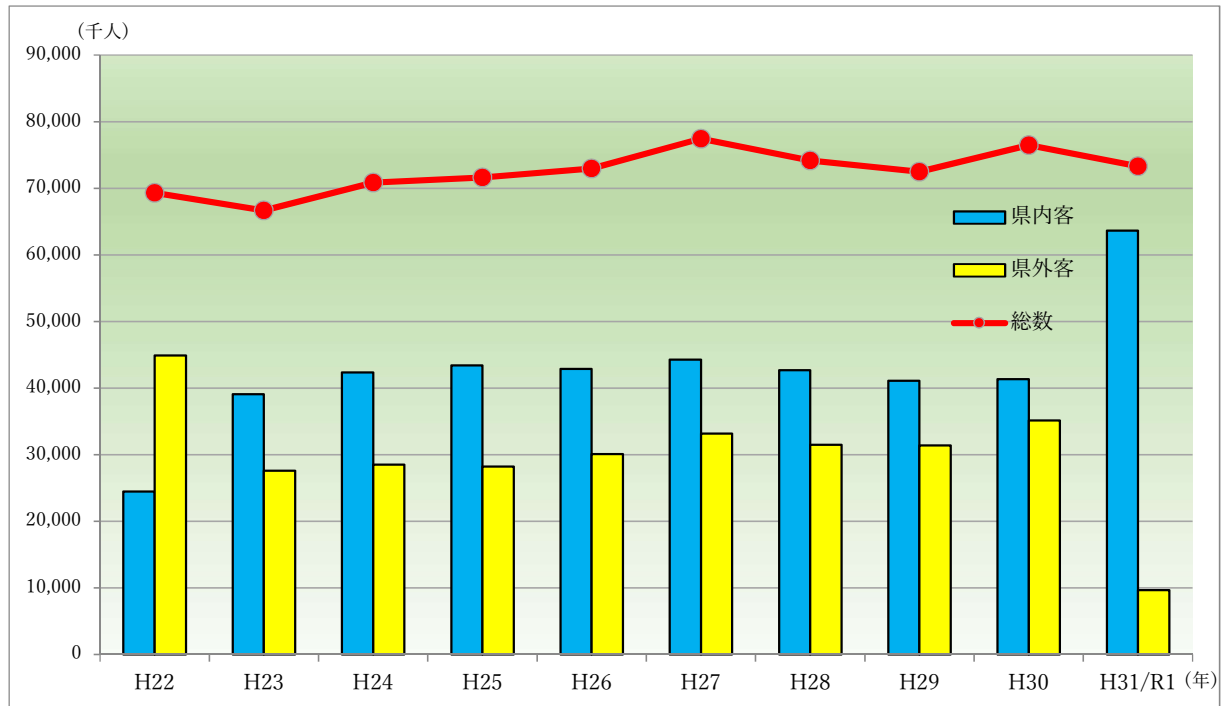
11 資料編

○計画の前提資料

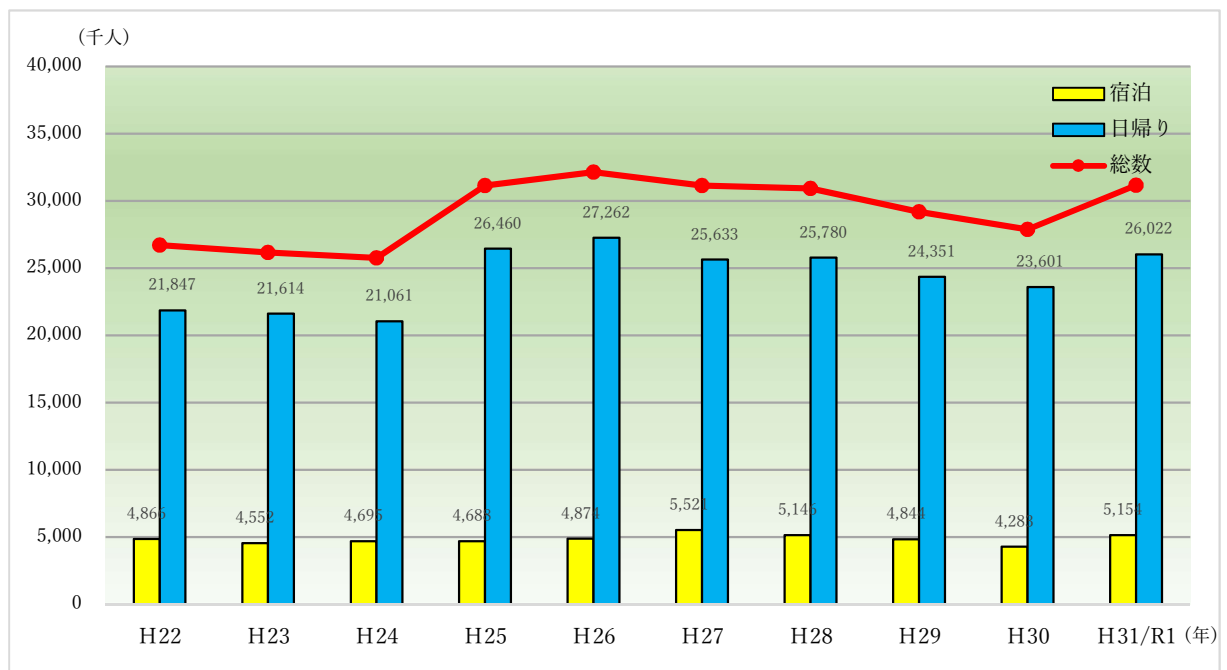
①周辺状況

■新潟県の観光動向（出典：新潟県観光入込客統計）

県内・県外客別入込数の推移

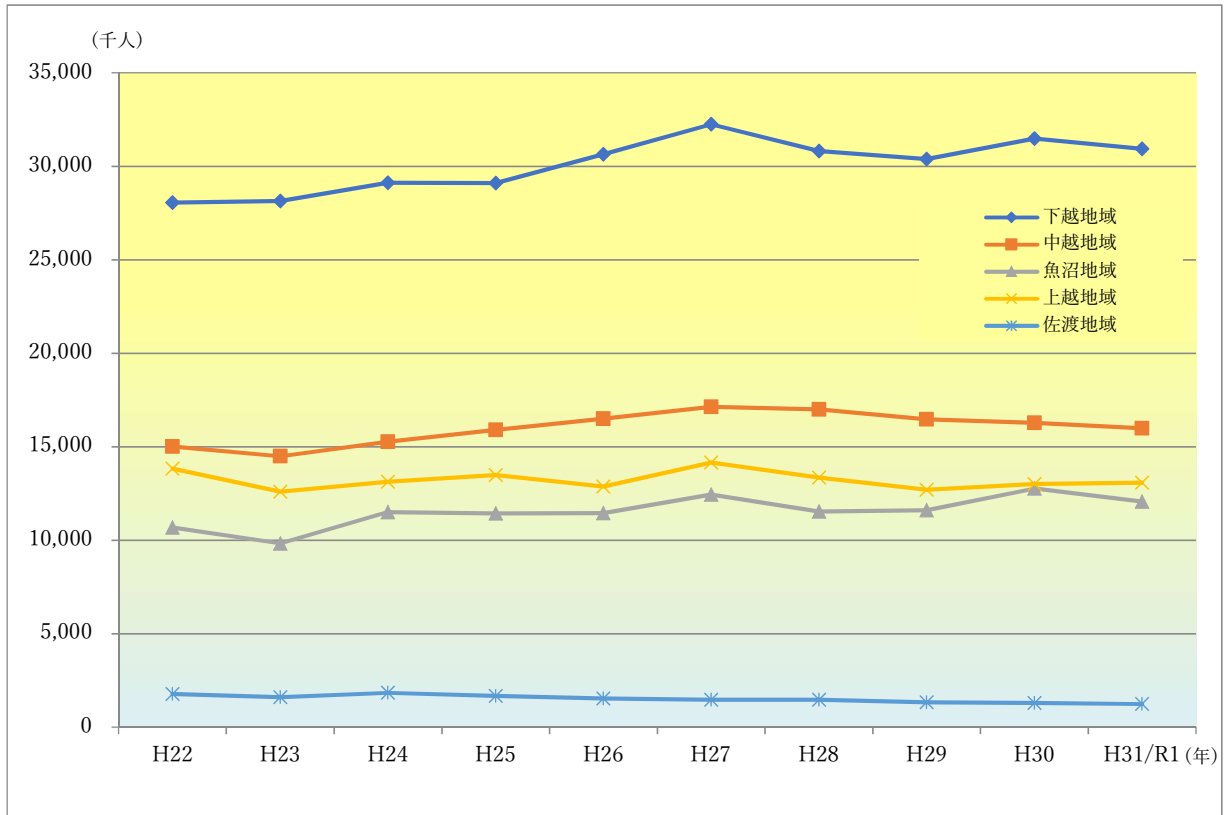


実入込観光客数

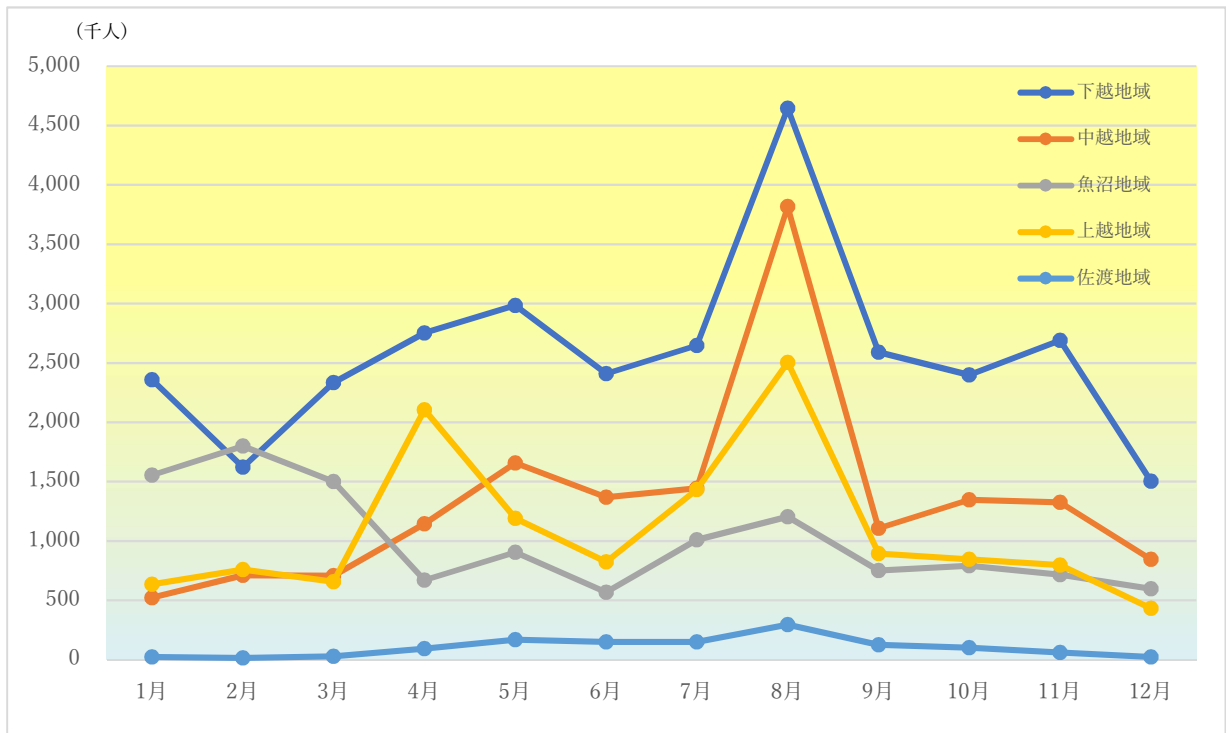


※「観光地点」ごとの重複を除いた実入込客数

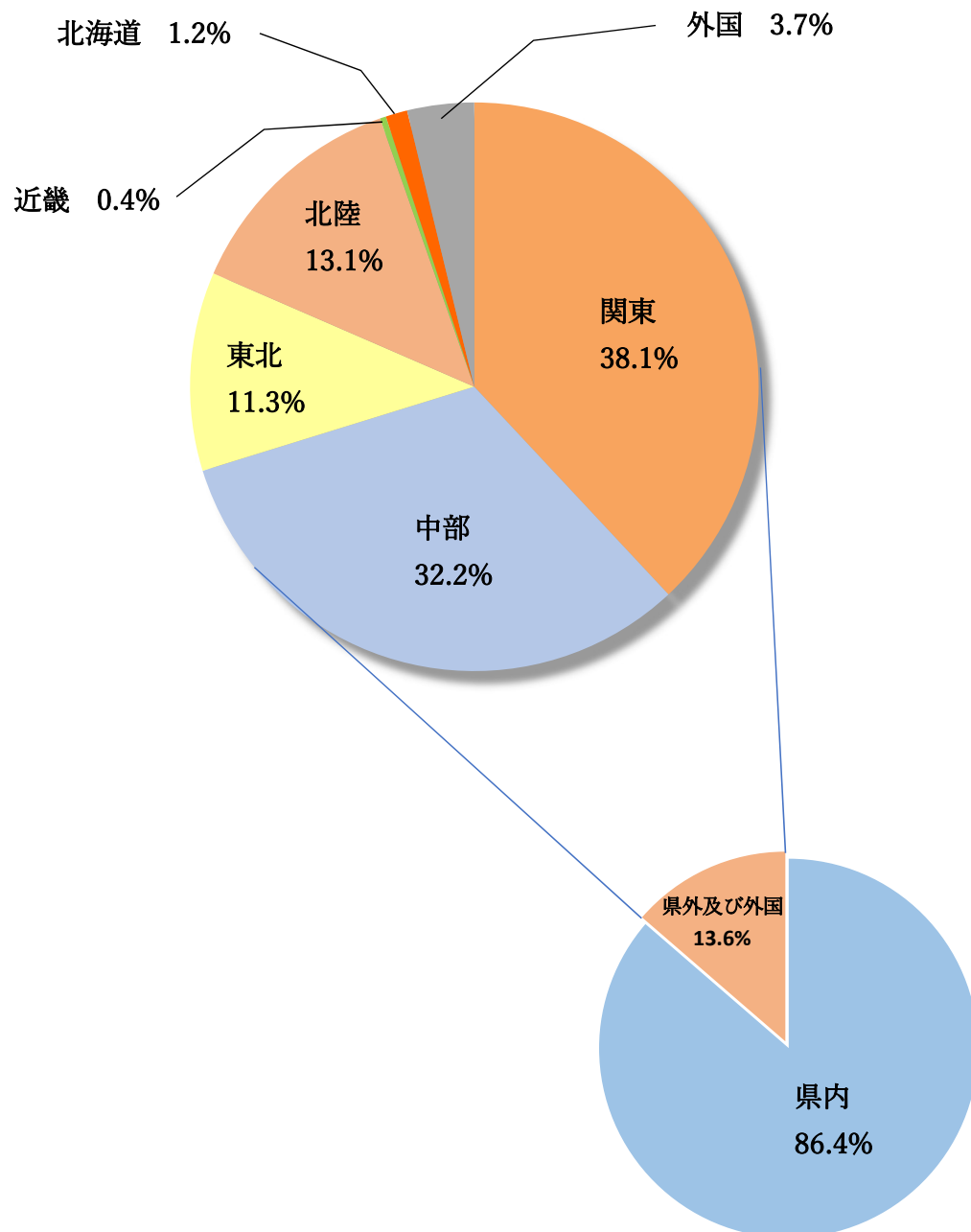
地区別観光客の推移



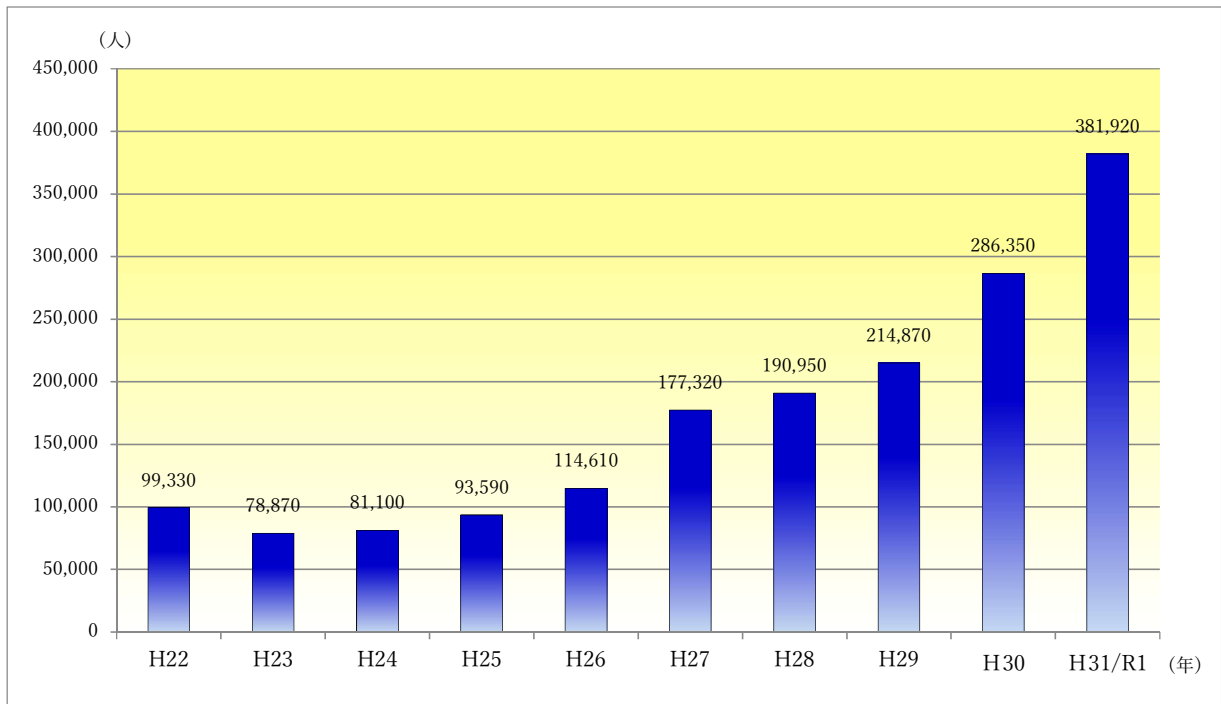
月別観光客の状況 (H31/R1)



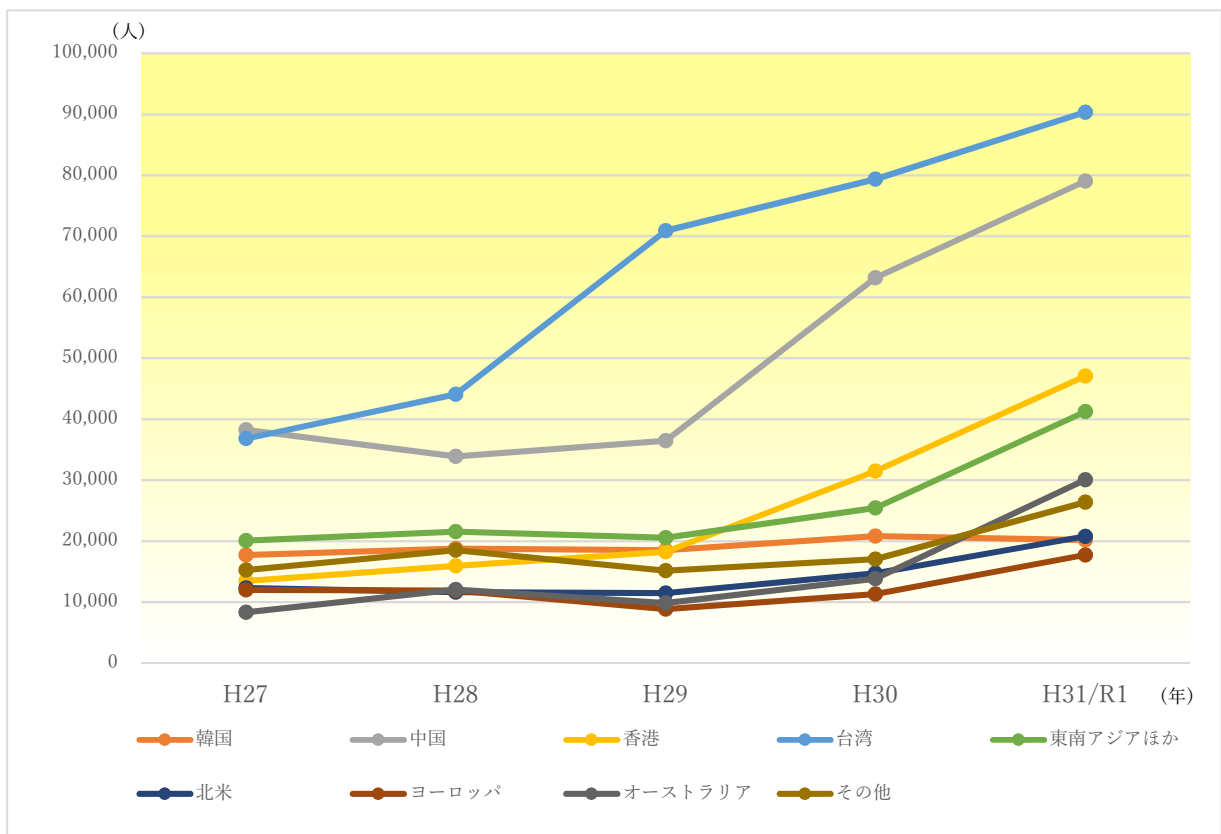
観光客の県内/県外・外国比、県外・外国の地域別構成
(H31/R1 年)



外国人延べ宿泊者数



外国人延べ宿泊者数推移（地域別）



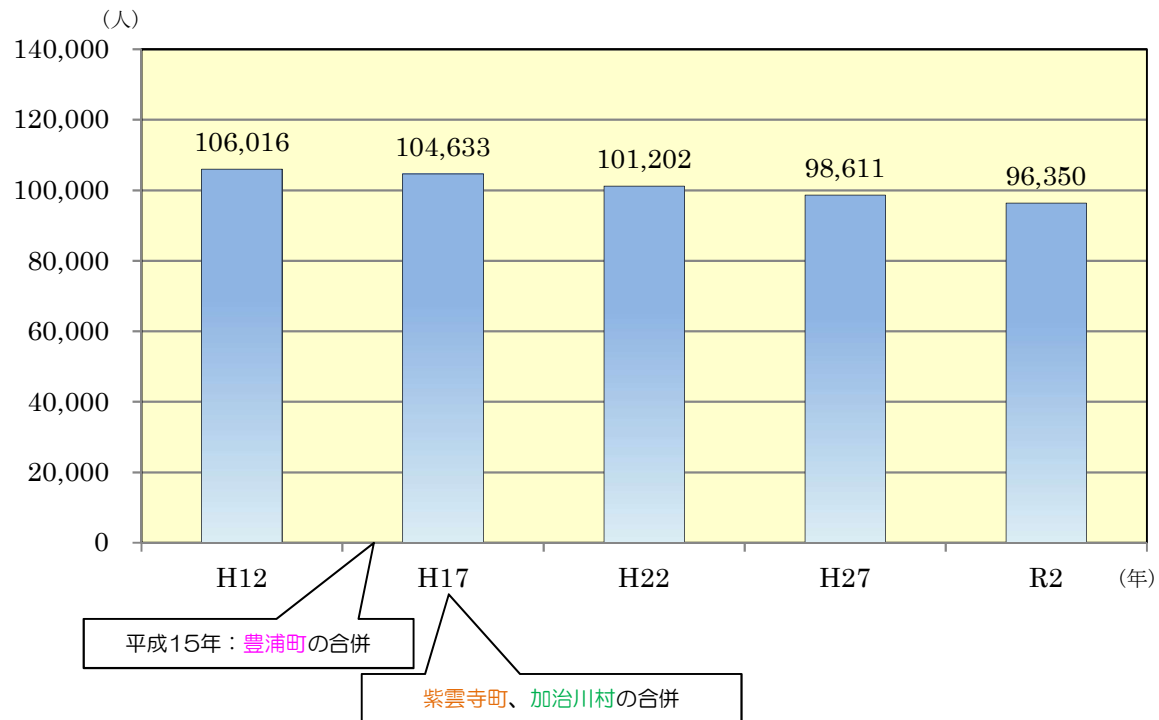
県内主要観光地点入込数

(注) 30 万人以上抜粋、「H31 新潟県観光入込客統計 別表」より

市町村名	観光地店名	観光目的	H31/R 1 年	H30年	対前年比
村上市	瀬波温泉	温泉・健康	316,281	344,630	91.8%
関川村	地域文化交流施設「ちぐら」	都市型観光－買物・食等－	751,061	640,509	117.3%
新潟市	白山神社（初詣を除く）	歴史・文化	702,000	699,000	100.4%
	新潟市水族館（マリニピア日本海）	歴史・文化	523,308	514,022	101.8%
	動物ふれあいセンター	歴史・文化	367,934	348,121	105.7%
	食と花の交流センター	スポーツ・レクリエーション	678,734	559,758	121.3%
	新潟ふるさと村	都市型観光－買物・食等－	1,704,500	1,673,400	101.9%
	花夢里にいつ	都市型観光－買物・食等－	584,421	557,644	104.8%
	花とみどりのシンボルゾーン	都市型観光－買物・食等－	348,658	370,103	94.2%
	ピアBandai	都市型観光－買物・食等－	932,903	887,092	105.2%
	食育・花育センター	都市型観光－買物・食等－	390,472	391,128	99.8%
	新潟市産業振興センター（イベント等）	行祭事・イベント	313,579	393,252	79.7%
	新潟まつり（花火大会を除く）	行祭事・イベント	330,000	326,000	101.2%
	新潟まつり花火大会	行祭事・イベント	580,000	575,000	100.9%
	コンベンション（朱鷺メッセ開催）	行祭事・イベント	795,200	798,600	99.6%
	食の陣	行祭事・イベント	339,878	212,635	159.8%
	デンカビッグスワンスタジアム（スポーツ観戦）	行祭事・イベント	391,538	442,184	88.5%
新発田市	月岡温泉	温泉・健康	506,746	519,610	97.5%
阿賀野市	瓢湖水きん公園	自然	350,108	303,884	115.2%
弥彦村	弥彦山ロープウェイ	自然	376,590	348,300	108.1%
	彌彦神社	歴史・文化	1,267,760	1,284,070	98.7%
	弥彦公園	スポーツ・レクリエーション	367,450	325,200	113.0%
阿賀町	阿賀野川ライン	自然	380,906	380,649	100.1%
長岡市	国営越後丘陵公園	スポーツ・レクリエーション	459,307	476,150	96.5%
	寺泊魚の市場通り	都市型観光－買物・食等－	1,672,800	1,669,900	100.2%
	道の駅R290とちお	都市型観光－買物・食等－	451,500	434,100	104.0%
	長岡まつり大花火大会	行祭事・イベント	1,080,000	1,040,000	103.8%
柏崎市	日本海フィッシャーマンズケープ	都市型観光－買物・食等－	480,000	582,000	82.5%
加茂市	加茂山公園	スポーツ・レクリエーション	303,801	288,920	105.2%
見附市	道の駅パティオにいがた	都市型観光－買物・食等－	1,138,350	1,145,176	99.4%
十日町市	清津峡渓谷歩道トンネル	自然	302,639	176,525	171.4%
湯沢町	越後湯沢温泉	温泉・健康	582,810	538,620	108.2%
南魚沼市	道の駅南魚沼	都市型観光－買物・食等－	433,370	433,280	100.0%
上越市	上越市立水族博物館「うみがたり」	歴史・文化	569,608	643,303	88.5%
	高田城百万人観桜会（4月）	行祭事・イベント	1,205,000	884,000	136.3%
	上越まつり（7月）	行祭事・イベント	338,000	345,600	97.8%
糸魚川市	糸魚川ジオステーションジオパル	スポーツ・レクリエーション	335,700	313,640	107.0%
	道の駅マリンドーム能生	都市型観光－買物・食等－	456,210	415,710	109.7%
妙高市	妙高高原温泉郷	温泉・健康	549,030	584,440	93.9%
	道の駅あらい	都市型観光－買物・食等－	3,041,370	3,033,840	100.2%

② 新発田市の特性

■新発田市の人口（旧市町村を含む）



（出典：平成27年までは国勢調査、令和2年は住民基本台帳）

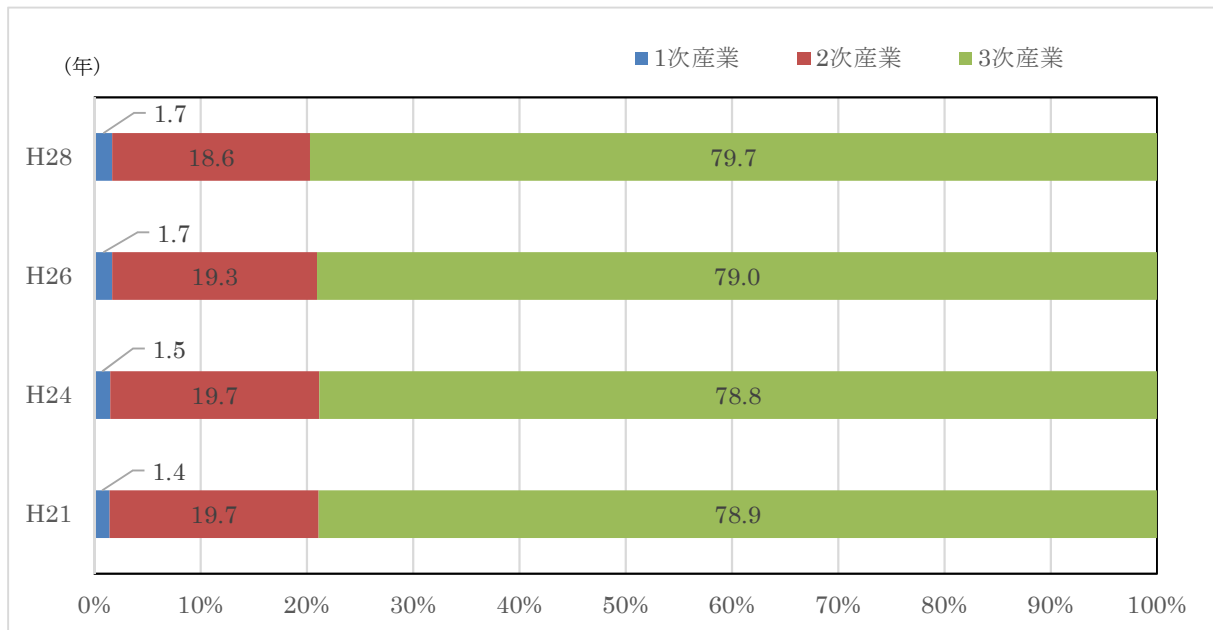
■新発田市の産業

産業別事業所数・従業者の推移

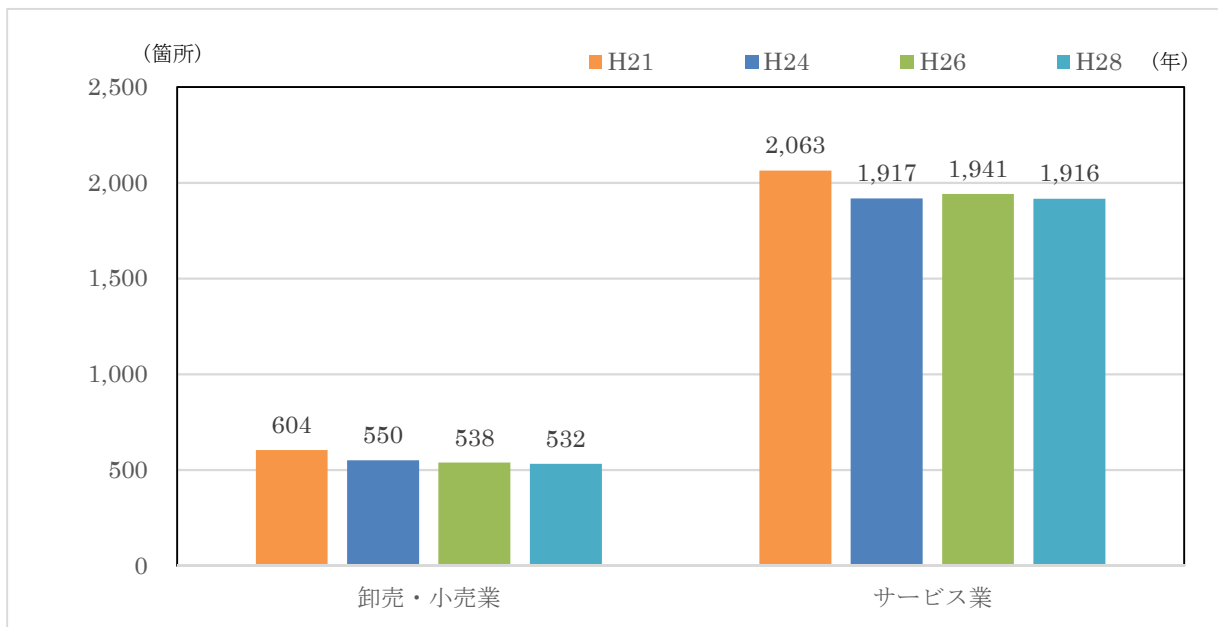
分類	産業	H21		H24		H26		H28	
		事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
1次	農業，林業	67	877	64	810	71	859	71	903
	漁業	1	1	1	1	1	1	-	-
	農業，林業，漁業間格付不能	-	-	1	12	-	-	-	-
	鉱業，採石業，砂利採取業	1	14	-	-	1	18	1	19
2次	建設業	611	4,261	549	3,820	523	3,725	500	3,655
	製造業	329	8,120	317	7,806	311	7,548	285	8,368
	電気・ガス・熱供給・水道業	4	165	6	173	5	161	4	160
3次	情報通信業	17	100	22	125	19	102	14	69
	運輸業，郵便業	75	1,632	70	1,467	68	1,390	64	1,257
	卸売業，小売業	1,337	8,993	1,213	8,619	1,140	8,121	1,124	8,134
	金融業，保険業	75	905	67	747	62	787	58	738
	不動産業，物品賃貸業	216	474	206	469	207	544	206	550
	学術研究，専門・技術サービス業	119	728	114	646	121	644	118	664
	宿泊業，飲食サービス業	604	4,236	550	4,036	538	3,811	532	3,786
	生活関連サービス業，娯楽業	597	2,705	527	2,502	512	2,603	504	2,612
	教育，学習支援業	138	716	141	723	140	676	127	686
	医療，福祉	264	3,744	274	3,944	306	4,779	326	4,802
	複合サービス事業	36	425	25	141	30	487	27	446
	サービス業（他に分類されないもの）	305	2,139	286	1,798	294	1,825	282	1,721
合計		4,796	40,235	4,433	37,839	4,349	38,081	4,243	38,570

（出典：経済センサス）

産業別事業所数の構成



卸売・小売業及びサービス業の事業所数



(出典：経済センサス)

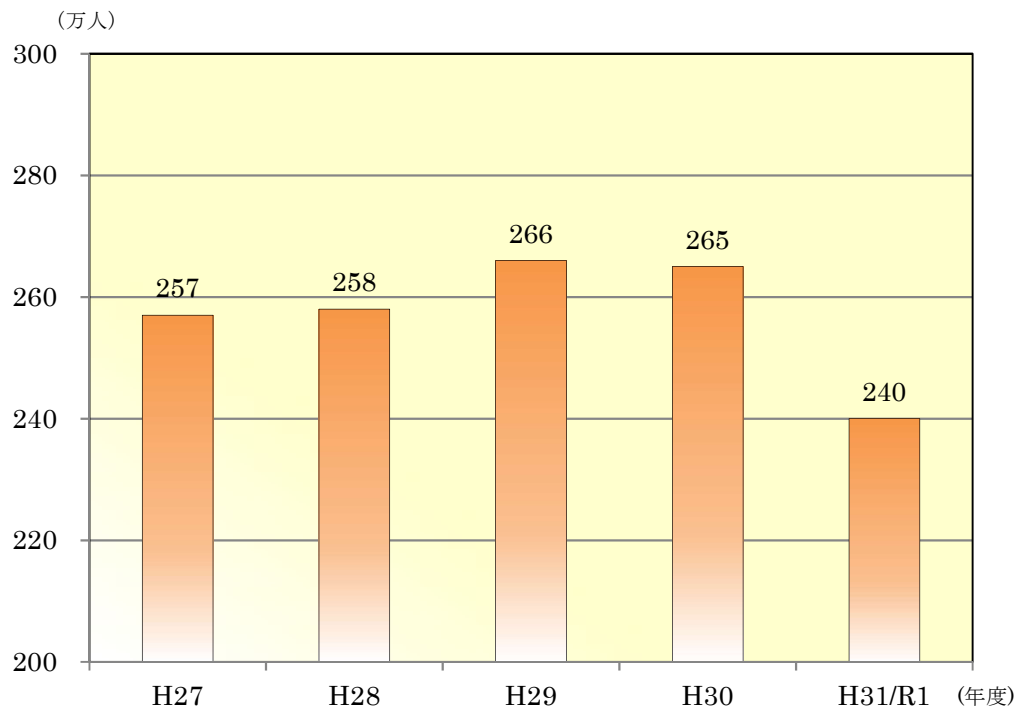
③ 新発田市の観光特性

■新発田市の観光入込状況（目的別入込み調べ）

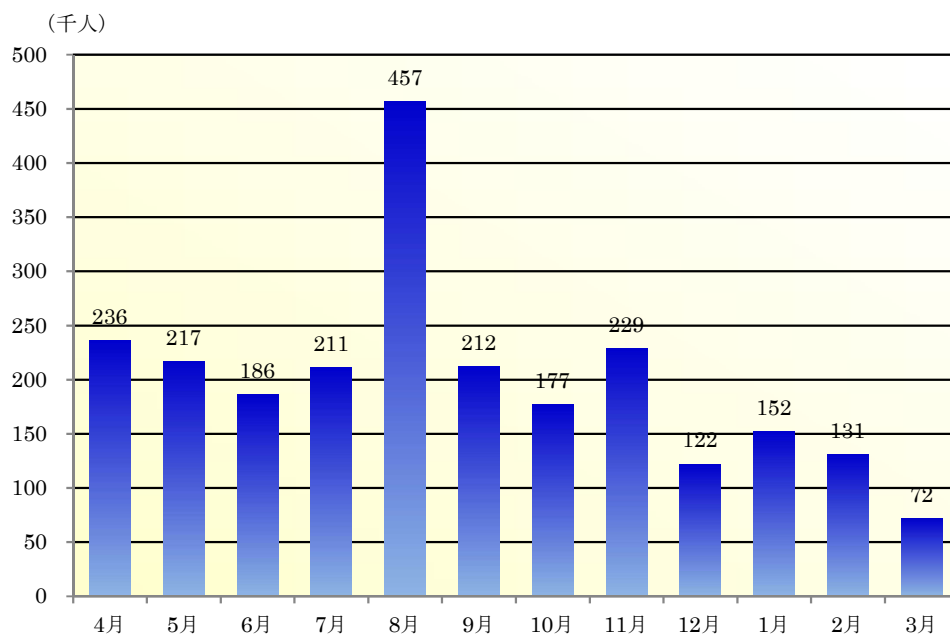
（年、人）

目的別	観光資源名	H27	H28	H29	H30	H31/R1
温泉地	月岡温泉	575,220	537,070	539,000	528,070	478,560
	月岡温泉足湯	82,030	84,510	88,800	89,700	87,800
	湯の平温泉	1,970	2,600	0	0	0
	紫雲の郷	187,080	195,780	192,910	215,090	177,130
	城山温泉	71,510	65,100	63,780	61,060	56,810
	あやめの湯	69,530	68,360	69,250	57,820	52,270
	二王子温泉	2,690	2,210	0	0	0
自然景観	五十公野公園	73,190	73,190	73,190	73,190	73,190
	五十公野公園あやめまつり	34,090	34,700	36,340	25,130	20,000
	内の倉ダム	14,000	14,000	14,000	14,000	14,000
	加治川治水ダム	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	藤塚浜海水浴場	50,250	55,600	39,790	47,700	50,180
	ニノックススキー場	50,850	51,250	52,180	51,320	26,050
	新発田市大峰山	17,620	16,920	20,000	16,950	11,070
	新発田市焼峰山	3,270	2,480	2,360	2,110	2,130
	新発田市組倉山	2,320	2,810	1,760	1,700	900
	新発田市蒜場山	2,350	2,210	1,990	920	620
	荒川剣龍峽	2,200	1,610	1,220	1,840	1,350
	二王子神社キャンプ場	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	滝谷森林公園	4,910	11,640	13,180	12,440	12,090
	二王子岳	30,720	30,200	29,490	30,150	29,260
	県立紫雲寺記念公園	77,230	77,230	77,230	77,230	77,230
	オートキャンプ場	8,920	9,940	8,850	8,850	9,340
	新発田城カントリークラブ	33,120	33,120	33,120	33,120	33,120
	フォレストゴルフクラブ	42,630	42,630	42,630	42,630	42,630
	中峰ゴルフ倶楽部	34,920	34,250	33,130	35,200	35,610
	紫雲ゴルフクラブ	51,720	50,220	48,250	49,060	49,080
	ノーブルウッドゴルフ倶楽部	35,320	35,400	33,990	38,890	41,310
	県立愛鳥センター	11,550	10,448	11,740	10,190	9,490
	県立公園スポーツ施設	53,460	57,440	52,030	57,250	42,030
	新発田市カルチャーセンター	9,750	30,650	230,330	235,950	150,180
	カリオンパークおやすみ処	2,540	2,540	2,540	2,540	2,540
	加治川	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	大天城公園	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400
	カリオンパーク	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
名所・旧跡	新発田城	52,520	54,440	52,900	47,980	52,870
	清水園	30,100	30,980	28,410	26,370	24,680
	菅谷不動尊	41,000	41,000	41,000	41,000	41,000
	西公園	5,970	5,970	5,970	5,970	5,970
	市島邸	11,820	8,550	8,630	8,770	8,390
	五十公野御茶屋	2,660	3,220	3,190	2,400	2,950
	諏訪神社・東公園	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
	城址公園	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000
文化施設	たまり駅	28,660	23,250	22,250	21,600	21,280
	道の駅 ふれあいセンター桜館	185,010	182,670	186,100	186,580	166,220
	刀剣伝承館	4,060	2,790	2,470	2,590	2,320
	旧県知事公舎記念館	4,300	2,670	3,030	4,760	2,330
	ひいどろカリオン店	42,100	42,250	42,550	42,750	43,030
	鶴谷虹児記念館	13,570	8,490	9,500	7,250	7,570
産業観光	酒蔵見学	29,360	29,360	29,360	29,360	29,360
まつり・イベント	城下町新発田ふるさとまつり	179,600	197,000	188,600	185,780	189,000
	天王まつり	6,500	6,500	6,000	6,000	2,000
	花市	4,000	4,000	3,500	3,500	1,500
	豊年秋まつり	2,500	3,000	2,000	2,000	1,500
	義士祭	500	500	600	600	600
	赤谷どんづきまつり	200	200	200	200	200
	月岡温泉どんと祭り	2,000	1,500	1,000	7,000	7,000
	大友稲荷	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
	大日如来	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	北越後大農業まつり	3,000	8,000	8,000	3,000	2,000
	全国観光みやげ品展	66,110	39,580	29,460	22,730	29,000
	新発田春まつり	18,000	36,000	200	30,000	33,000
	歩くまち文り	5,000	0	0	0	0
	ふれあいフェスタ	6,800	6,800	6,800	4,760	4,760
	大菊花祭	6,000	39,580	29,460	1,400	1,400
	加治川桜まつり	8,000	0	1,500	0	3,000
	大峰山桜まつり	7,000	8,500	8,000	7,510	5,620
	魚まつり	3,000	1,500	1,000	2,060	2,450
	城下町しばた雑煮合戦	18,000	25,000	25,000	25,000	25,000
	鶴谷虹児物語（新発田そばまつり）	20,000	0	0	0	0
	食'king-Agakita+	20,000	26,000	0	0	0
	港祭り	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	合計	2,571,700	2,582,808	2,667,160	2,656,420	2,409,370

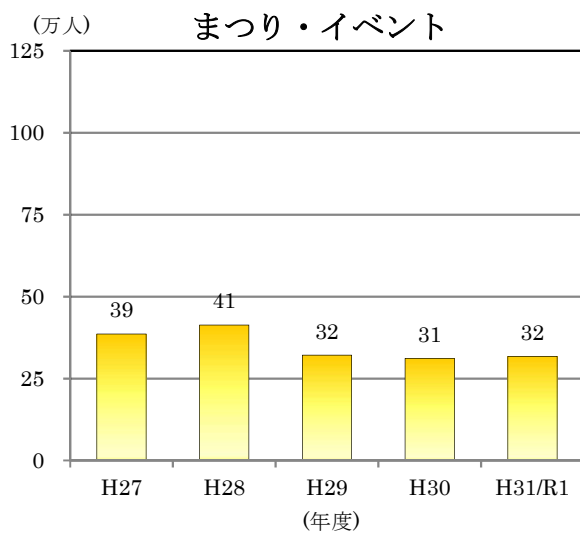
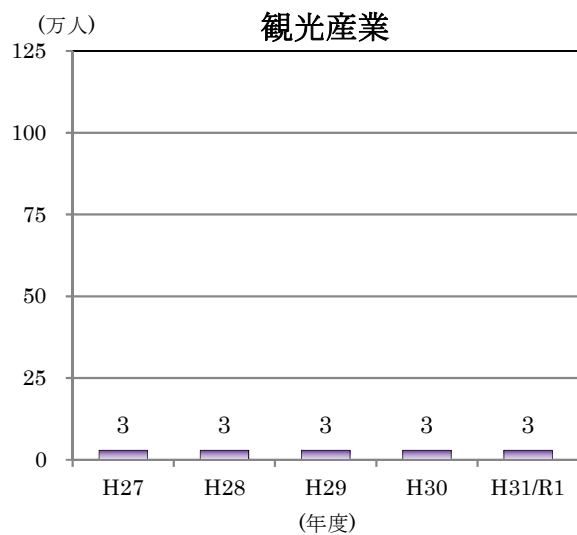
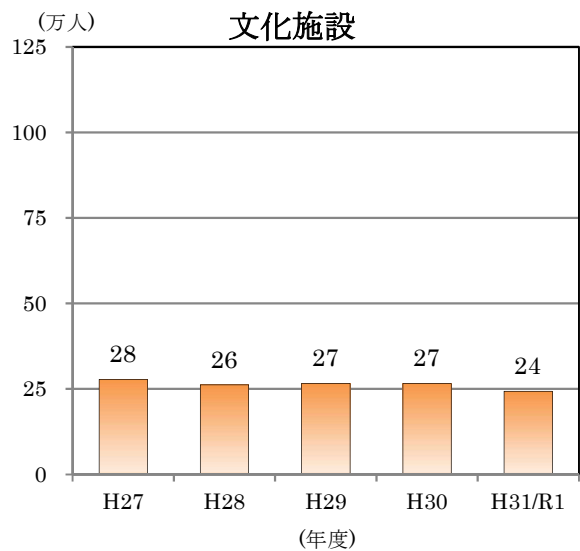
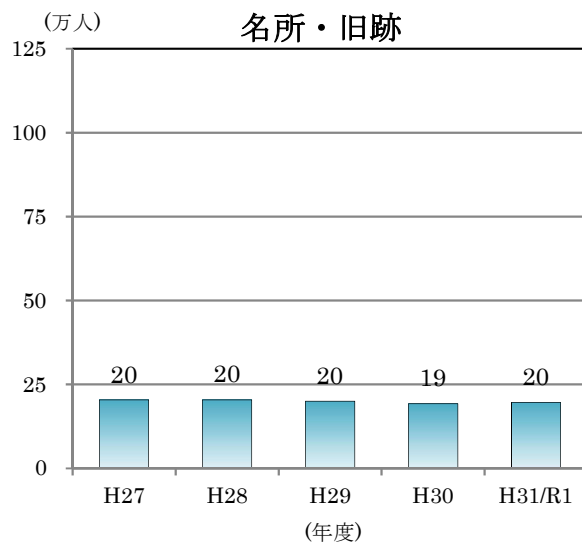
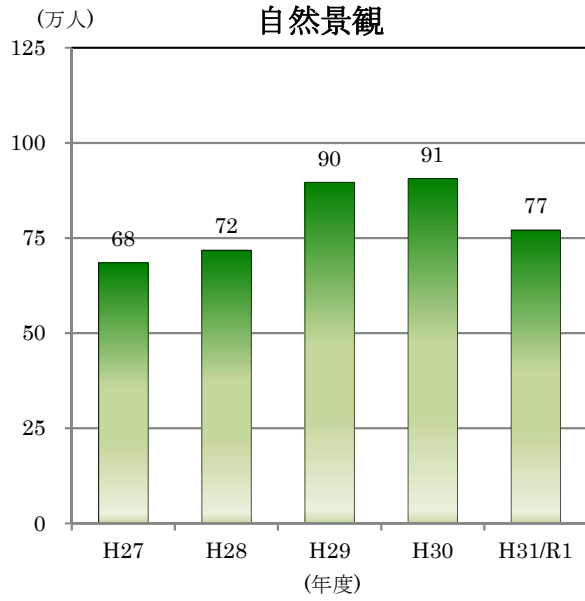
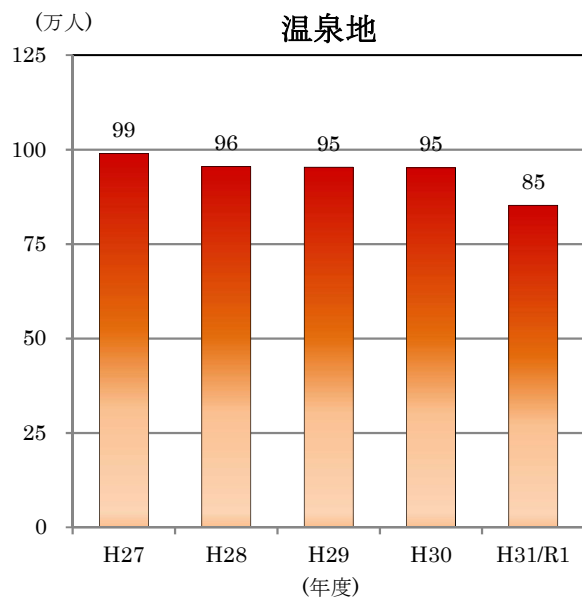
観光入込み動向



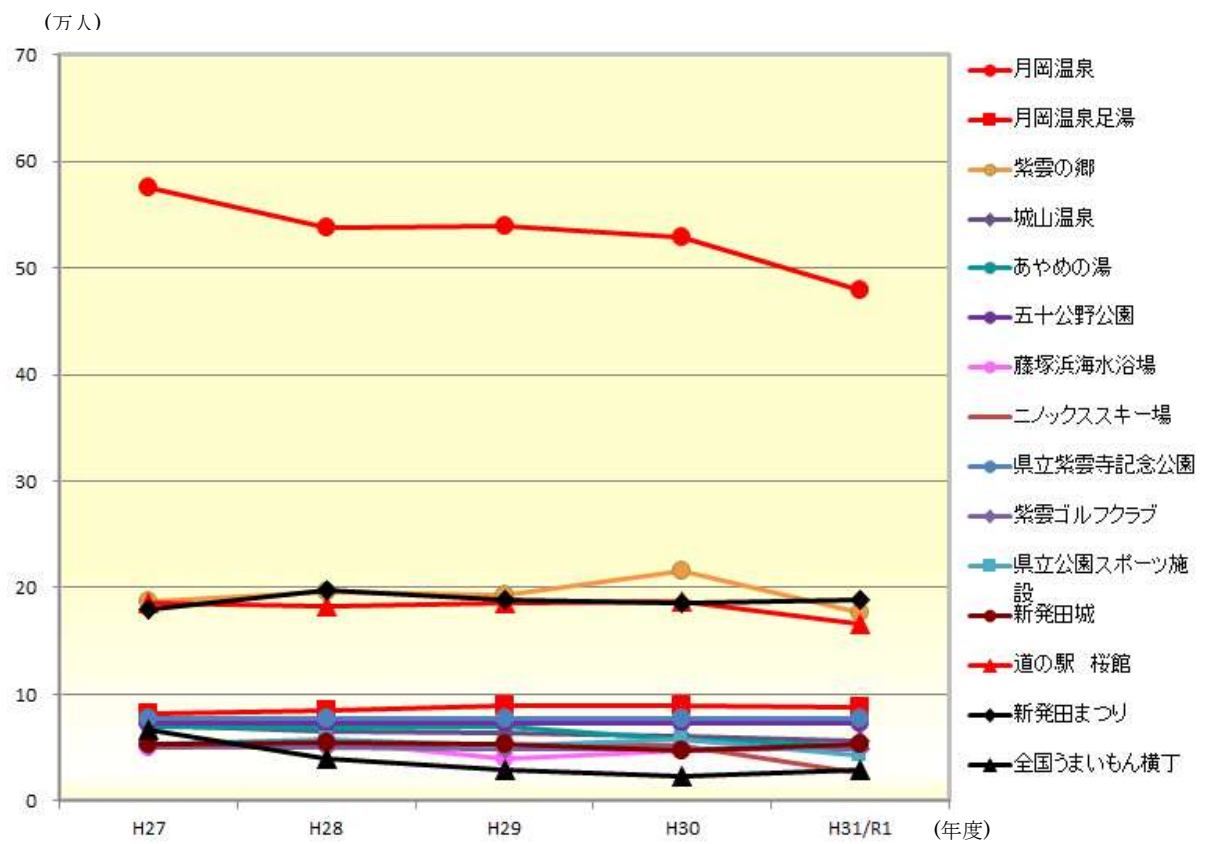
月別観光入込み数 (H31/R1 年度)



目的別観光入込み数



主要観光資源別入込み動向



■新発田市の宿泊状況

新発田市の宿泊施設と収容人員（平成 27 年度時点）

地 区	軒 数	部屋数	収容人員
月岡温泉	15	611	3,808
新発田エリア	11	422	637
紫雲寺エリア	6	58	271
合 計	32	1,091	4,716

■新発田市の人物

新発田市の人物と業績

主な人物	年代	業績等
初代藩主 溝口秀勝候	1548 年～1610 年	尾張溝口村生。1598 年に豊臣秀吉より越後蒲原郡六万石を賜り、加賀大聖寺より新発田に入封。以降 12 代にわたって新発田藩を収める。
赤穂義士 堀部安兵衛	1670 年～1703 年	元新発田藩士で父の死後、江戸にて高田馬場の仇討ちを果たし、後に赤穂浪士堀部弥兵衛の養子となり、元禄 15 年の浅野藩赤穂浪士による吉良邸討ち入りに加わる。
明治期の財界人 大倉喜八郎	1837 年～1928 年	天保期に新発田で生まれ、後に江戸に出て商業を志す。戊辰戦争当時に大倉屋を創設し、海外貿易を契機に発展して大倉財閥を築く。（大成建設、東京電力、ホテルオークラなど）
大正期の叙情画家 落谷虹児	1898 年～1979 年	新発田市生まれ。童謡「花嫁人形」の作者で、上京後「少女画報」などの挿絵を描き、大正 15 年にはパリに渡りその後も挿絵画家として活躍。
昭和初期の画家 佐藤哲三	1910 年～1954 年	蒲原平野の風景や土地の生活を描いた新発田郷土画家。昭和初期に梅原龍三郎の指導を受け、国展に毎年入選するなど活躍する。
刀剣作家 天田 昭次	1927 年～2013 年	新発田市（旧豊浦町）生まれ。日本刀の最高賞である正宗賞を3度受賞するなど、刀づくりに一生をかけ、平成9年に重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定された。

○計画の策定体制等

計画の策定にあたり、関係団体等で構成された「新発田市観光振興基本計画策定委員会」により検討を行いました。

また、市民等の意見を聴取するため、パブリックコメントを実施しました。

①新発田市観光振興基本計画策定委員会規約

（名称）

第1条 この会は、新発田市観光振興基本計画策定委員会（以下、「委員会」という。）という。

（目的）

第2条 この委員会は、新発田市観光振興基本計画について、その内容を協議する。

（役員）

第3条 委員会に次の役員を置く。

（1）委員長 1名

（2）副委員長 1名

2 委員長は、新発田市産業戦略監をもって充てる。

3 副委員長は、委員長が任命する。

（役員の職務）

第4条 委員長は、委員会を代表し、会務を掌握する。

2 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

（任期）

第5条 委員の任期は、策定完了までとする。

2 委員に欠員が生じた場合は補充する。補充により就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

（会議）

第6条 委員会は、委員長が招集する。

2 会議の議長は、委員長があたる。

3 会議は次の事項を協議する。

（1）新発田市観光振興基本計画の内容に関すること。

（2）規約の改正に関すること。

（3）その他委員長が必要と認める事項。

（事務局）

第7条 委員会の処理をするため、事務局を設置する。

2 事務局は、新発田市観光振興課に置き、事務局職員は委員長が任命する。

（その他）

第8条

この規約に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、その都度委員長が委員会に諮り定めるものとする。

②新発田市観光振興基本計画策定委員会 委員名簿（順不同）

選出区分	委員名	組織・団体名称	役職
商工関係	加藤 康 弘	新発田商工会議所	事務局長
観光関係	伊藤 一 元	新発田市観光協会	事務局長
観光関係	水野 貴 弘	新潟県旅館ホテル組合新発田支部	支部長
観光関係	小竹 英 之	月岡温泉観光協会	会長
観光関係	齋藤 泰 弘	月岡温泉旅館協同組合	理事長
交通事業者	星野 貴 志	有限会社 高砂観光バス	代表取締役
交通事業者	庭山 奈津子	新発田市ハイヤー・タクシー協会	会長
観光関係	小林 豊 男	株式会社 紫雲寺記念館	代表取締役
観光関係	波塚 貴 浩	加治川商工会	経営支援室室長代理
行 政	清田 稲盛樹	新発田市	産業戦略監
行 政	小野 洋 一	新発田市スポーツ推進課	課長
行 政	小林 一 哉	新発田市商工振興課	課長
行 政	長谷川 英 一	新発田市農林水産課	課長
行 政	井上 貴 之	新発田市観光振興課	課長

新発田市観光振興基本計画

新発田市観光振興課

〒957-0055

新潟県新発田市諏訪町1丁目2番11号

イクネスしばたMINTO館 1F

TEL 0254-28-9960

FAX 0254-26-8585